

学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり

（ 報 告 書 ）



平 成 30 年 3 月

第 11 期千代田区生涯学習推進委員会議

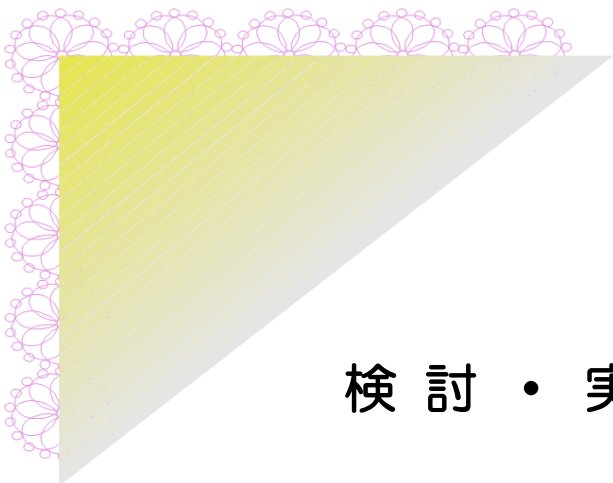
目 次

▼ 第 11 期千代田区生涯学習推進委員 名簿	1
▼ 検討・実施のまとめ	2
Ⅰ はじめに	3
Ⅱ 『ちよだ生涯学習カレッジ』の開校と運営	4
1 概要	4
2 「学びと地域のコーディネーター養成コース」の概要	5
3 第 1 期生について	7
4 第 2 期生について	10
Ⅲ 『ちよだ生涯学習カレッジ』の課題の検討	12
1 2 コース目について	12
2 卒業後の展望について	13
Ⅳ 学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり	15
1 千代田区生涯学習連絡会	15
2 学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク	18
Ⅴ 今後の課題と展望	20
▼ 第 11 期生涯学習推進委員会議 開催経過	21
▼ 生涯学習推進委員会議だより『エポック No96～104』	22

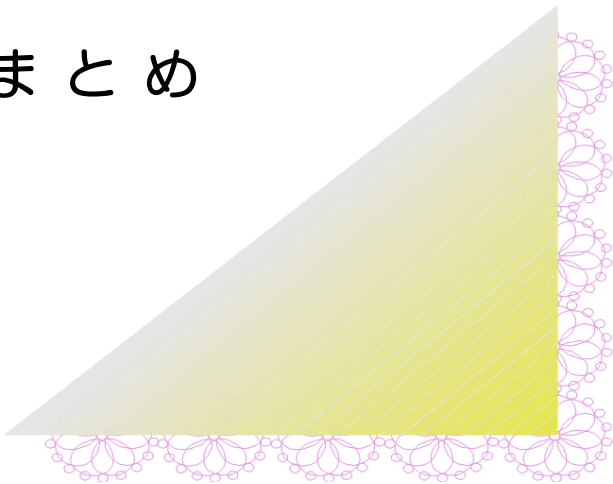
第 11 期千代田区生涯学習推進委員 名簿

	職	氏 名	所属団体等名称
1	会長	佐藤 晴雄	日本大学文理学部教育学科 教授
2	副会長	前田 耕司	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授
3	委員	服部 元	千代田区専修学校各種学校協会 理事
4	委員	松井 千恵子	昌平評議会コミュニティスクール運営委員会
5	委員	鈴木 やす代	千代田区障害者共助会
6	委員	武藤 祐子	千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター長（平成 28 年度）
7	委員	清水 昌代	千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター長（平成 29 年度）
8	委員	安田 郁子	千代田区文化芸術協会 副理事長
9	委員	藤井 敬子	千代田区スポーツ推進委員協議会
10	委員	木村 由香	千代田区青少年委員会
11	委員	吉田 和仁	私立高等学校 和洋九段女子中学校高等学校 教頭
12	委員	浅川 宏	千代田区立学校 お茶の水小学校 校長
13	委員	丸山 輝	公募委員
14	委員	杉森 一恵	公募委員

（平成 28～29 年度）



検 討 ・ 実 施 の ま と め



第 11 期千代田区生涯学習推進委員会議 報告書

テーマ：学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり

I はじめに

第 11 期生涯学習推進委員会議は、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク」をテーマとして約 2 年間の協議を経て、ここに報告書をまとめることができた。

本推進委員会議は、第 10 期の報告書で「(仮称) 生涯学習大学の創設について」を提言したところであるが、これは平成 28 年に「ちよだ生涯学習カレッジ」(以下、「ちよカレ」という)という名称で開校され、1 コース目が運営されるに至った。そこで、今期の第 11 期は、その 2 コース目の学習課題について協議すると共に、「ちよカレ」の卒業生による今後の活動をどう支援できるかを一つの課題として協議することとした。

まず、「ちよカレ」の 2 コース目の学習課題としては、様々な意見も出され、1 コース目とは異なる課題として、千代田区の魅力の発信とアピールを担う「千代田まちマイスター」の養成を取り上げるよう提言することとした。とりわけ、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れて国内外の観光客に対応するボランティア活動を担う人材(マイスター)の養成が求められるが、これに限らず、千代田区の新たな価値を見出し、創造し、これらを区内外の方々に発信する人材の養成も課題になる。この 2 コース目も、「学び」の縦糸と横糸が織りなすネットワークづくりにつながることを目指している。

つぎに、卒業生の在り方に関しては、「学び」を縦糸、すなわち「ちよカレ」卒業後の学びにどう結びつけ、地域活動等に生かすことができるかという視点と、それを横糸、すなわち区内の多様な学びの場との関連付けを図ることができるかという視点を、交差させるような仕組み(ネットワーク)づくりに焦点を当てて議論を重ねてきた。このことについては、本報告書の「Ⅲ 2. 卒業後の展望について」で述べてあるように、「ちよカレサポーターへの登録」「人材バンク登録」「千代田区内でのデビュー」という 3 つの支援策を提言している。

本報告書では、「Ⅱ『ちよだ生涯学習カレッジ』の開校と運営」についても触れ、その実態を記し、続く「Ⅲ『ちよだ生涯学習カレッジ』の課題と検討」の中で前述した 2 コース目の在り方と卒業生の展望」に関する提言をまとめてある。そして、「Ⅳ学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」に関しては千代田区生涯学習連絡会の報告と共に、そのネットワークづくりの視点を提言的に述べている。最後の「Ⅴ今後の課題と展望」では、千代田区における「学び」のネットワークづくりを展望しつつ、これからの課題について言及している。

なお、本報告書作成に至る過程では、計 9 回の会議を開催し、多くの委員から様々な視点による意見が出された。

最後に、本報告書が千代田区における「学び」の振興と施策の充実にいささかでも資することが出来れば、推進委員一同の喜びとなる。

Ⅱ 『ちよだ生涯学習カレッジ』の開校と運営

第 11 期生涯学習推進委員会議では、第 10 期生涯学習推進委員会議にて検討・決定した「ちよだ生涯学習カレッジ」の基本理念・方針を踏まえ、詳細について検討を重ね、下記のとおり決定した。

1. 概要

(1) 開校

平成 28 (2016) 年 10 月に開校し、第 1 期を開始した。以後、第 2 期は平成 29 (2017) 年 10 月、第 3 期は平成 30 (2018) 年 10 月と毎年 10 月に開始する。

(2) ちよだ生涯学習カレッジ学長

佐藤晴雄 氏 (日本大学文理学部教育学科教授)

(3) ちよだ生涯学習カレッジ事務局

千代田区立九段生涯学習館内に置く。

(4) 授業回数

36 回 (18 回／年)

※回数の中には、入学式、卒業式、オープンカレッジ等の行事は含まない。

(5) 卒業要件

下記の 2 つを満たすことを卒業要件とする。

①各単元の 6 回の授業のうち、4 回以上、および全 36 回のうち 28 回以上の出席。

ただし、30 分以上の遅刻および早退をあわせて計 2 回で、1 回の出席とみなす。

②授業における習熟度が一定の水準に達していると、コース長が認めること。

(6) 申込み資格

① 20 歳以上 (入学する年の 10 月 1 日現在)

② 千代田区内在住・在勤・在学

③ 2 年間継続して学ぶことができ、学習成果を地域活動やボランティア活動を通して実践する意欲のある方

(7) 定員

30 名

(8) 授業料

年間 1 万円 (2 年間で 2 万円)

(9) 選考方法および入学者の決定

入学願書に必要事項を記入し、作文（課題あり／600～800字）を添えて、事務局まで郵送、来館、またはホームページより、締切日までに必着にて申し込む。提出した入学願書は返却しない。

(10) 学生生活ハンドブック

「ちよだ生涯学習カレッジ」のルール等を記載した『学生生活ハンドブック』を作成し、学生に配布する。毎年見直し、その都度、改訂版を全ての在校生に配布する。平成28年10月の開校に先立ち、本会議ではハンドブックの内容について、以下のように検討し、反映した。

【学生生活ハンドブックの項目と内容】

① ちよだ生涯学習カレッジについて

- 本カレッジの基本理念及び3つの方針を理解し、自発的に積極的に学ぶこと
- 他の学生の意見や考えを尊重し、価値観を認め肯定的に関わること

② 学びと地域のコーディネーター養成コース

- 履修単位及び卒業要件について
- 卒業後について

③ 授業について

- 教室型の場合は19時～21時に行い、それ以外の場合はその都度知らせること
- 授業には学生証を必ず持参し、受付で提示すること
- 各授業終了後に「学びのフィードバック」を全員が提出し、日直は「授業レポート」を作成し提出すること

④ ちよカレルール

- 授業中のマナー（例：飲食禁止）
- 緊急時の対応
- 配布資料等の著作権・帰属先
- 貴重品の自己管理

⑤ 在学にあたって

- 委員会活動について
- 進級及び退学について

⑥ ちよだ生涯学習カレッジ事務局

- 事務局担当者と連絡先について

2. 「学びと地域のコーディネーター養成コース」の概要

「学びと地域のコーディネーター養成コース」では「学びと地域のコーディネーター」を養成する。「学びと地域のコーディネーター」とは学びを軸に地域と地域、人と地域、人と人とを繋ぐ役割を担う人である。本コースでは、千代田区内において学びをベースにコミュニティの形成に関わる実践力を身に付けることを目的とする。

(1) コース長

笹井宏益 氏

(就任時は文部科学省国立教育政策研究所総括客員研究員、現在は玉川大学学術研究所教授)

(2) 講師 (五十音順)

大学講師、千代田区関係者および各専門機関の研究者、各地でさまざまな活動をしている諸団体の代表など、学びと地域に関わる多種多彩な方々にご登壇いただく。

- 猪熊純氏 (首都大学東京都市環境学部助教/第1期)
- 宇於崎克也氏 (日本大学理工学部教授/第2期)
- 金城敦彦氏
(一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会事務局長/第1・2期)
- 笹井宏益氏 (玉川大学学術研究所教授/第1・2期)
- 佐々木浩一氏 (アーツ千代田 3331 アドミニストレーションマネージャー/第2期)
- 佐藤一子氏 (東京大学名誉教授/第1・2期)
- 清水昌代氏 (ちよだボランティアセンター長/第1・2期)
- 高井正氏 (立教大学学校・社会教育講座特任准教授/第2期)
- 中村政人氏
(東京藝術大学美術学部教授/アーツ千代田 3331 統括ディレクター/第1期)
- 成瀬友梨氏 (東京大学大学院工学系研究科助教第1期)
- 平川景子氏 (明治大学文学部教授/第1期)
- 山西優二氏 (早稲田大学文学学術院教授/第1・2期)
- 区関係機関・団体職員 他

(3) カリキュラム

6つの単元(基礎Ⅰ・Ⅱ、専門Ⅰ・Ⅱ、習熟Ⅰ・Ⅱ)の各6回の授業で構成される。

	単元	培う力	内 容
1 年 次	基礎Ⅰ 千代田区学・ コミュニティ論	キュレー ション力	自分＝個人を見つめ直し、千代田区の特色ある街づくりの事例を通して、個人と地域の関わり、コミュニティやコーディネート の在り方を考察する。
	基礎Ⅱ 生涯学習概論	コーデ ィネート力	生涯学習、ボランティア、プロボノ、さらにはコーディネート、ファシリテーション、ワークショップについて学ぶ。
	専門Ⅰ 千代田区の生涯 学習	分析力	個々の学びの体験を語ること、聴くこと、ワークショップを通して、話し合いの基本を学ぶ。参考となる他施設も見学し、それらを比較・検討し、発表する。
2 年 次	専門Ⅱ 生涯学習特論	企画力	1年次での学びをより実践的に深めるため、ゲストを招き、モデル事例を考察する。千代田区における生涯学習を基盤としたコミュニティの捉え方、関わり方を模索する。

	単元	培う力	内 容
2 年 次	習熟Ⅰ 実習	遂行力	オープンカレッジでのイベントを、学生自ら主体的にグループを組み、企画立案から運営までを行い、個ではなくグループでできること、グループで成し遂げる力を養う。
	習熟Ⅱ 演習	発信力	一人ひとりが、自分で探した課題について発表し、質疑に答えるゼミ形式の授業を通じて、学びを深めていく。

3. 第1期生について

(1) 募集

①募集期間

平成28年7月5日（火）～8月19日（金）

②周知媒体

- ちよだ生涯学習カレッジ入学募集案内
区施設等に設置
- 広報千代田7月5日号
- ポスター
区施設及び区掲示板に掲示
- チラシ
マンション連絡会を通して8月に配布及び区施設等に設置
- 区ホームページ及びSNS、ちよだ生涯学習カレッジ専用ホームページ
- プレスリリース

③応募状況

応募者数は35名、内訳は以下のとおり。

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
人数	1	5	2	18	8	1	35

区分	在住	在勤	合計
人数	23	12	35

(2) 選考・入学

応募者35名を審査し、35名全員の入学を決定した。

(3) 授業の日程と内容

原則として水曜日の 19 時～21 時

	日程	テーマ		内容
1	平成 28 年 10 月 5 日 (水)	入学式	入学式&オリエンテーション ・入学式 ・オリエンテーション ・プログラム説明、自己紹介	入学生 35 名のうち 33 名が参加した。
2	10 月 19 日 (水)	基礎 I ー1	私、私の生き方 ・自分のキャリアを振り返る ・今後、地域社会とどう関わっていくのか ・ライフキャリア	「生涯学習」と「コミュニティ」の定義、役割について基礎的な知識を学習した。
3	11 月 2 日 (水)	基礎 I ー2	地域を考える① ・建築・まちづくりの観点からみる ・各地域の取り組み ・地域のコーディネーターにできることとは？	地域活性化において様々なアプローチや活動の事例から、コーディネーターの果たす役割について考えた。
4	11 月 16 日 (水)	専門 I ー1	専門 I ガイダンス事例研究 ・生涯学習の現場	グループに分かれて自己紹介や生涯学習体験について語り合い、体験施設の候補地についても話し合った。
5	平成 28 年 11 月 17 日 (木) ～平成 29 年 3 月 22 日 (水) の間に受講	専門 I ー2	講座見学&体験 ・個人、もしくはグループでの 見学や体験	千代田区内の施設（日比谷図書文化会館の日比谷カレッジ、社会福祉協議会主催事業など）の見学や講演会に参加した。
6	12 月 7 日 (水)	基礎 I ー3	千代田学①事例研究 ・現代アートと地域 ・外神田と神田錦町での取り組みを中心に	アートを通して千代田区内で展開している取り組みと、地域住民を巻き込んだイベントを数多く実施する取り組みについて学習した。
7	平成 29 年 1 月 11 日 (水)	基礎 I ー4	千代田学②事例研究 ・働く人にとってのコミュニティ ・大手町丸の内有楽町エリアでの取り組みを中心に	景観まちづくりや活性化の取り組みについて学習した。
8	1 月 25 日 (水)	基礎 II ー1	生涯学習① ・学び、教育とは	「学び」と「教育」の定義について学習した。自分自身のこれまでの学びについて振り返る作業も行った。
9	2 月 8 日 (水)	基礎 I ー5	千代田学③ ・千代田区の魅力	区の担当者からオリ・パラにむけた区の取り組みについて学習し、今後どのように関わられるか等話し合った。
10	2 月 22 日 (水)	基礎 II ー2	生涯学習② ・21 世紀に求められる学びとは	多様な学びに関する世界の動向、日本の動向について学んだ。
11	3 月 8 日 (水)	基礎 I ー6	地域を考える② ・千代田区での課題と取り組みの可能性を探る	各自が調べてきた地域の課題をグループ内で発表、共有した。
12	3 月 22 日 (水)	専門 I ー3	振り返り&探求 ・見学や体験の振り返り ・自分たちで見学施設研究	施設見学委員会が選出した 6 施設、講師が推薦した 2 施設について説明し、後日、施設の希望をとった。

	日程	テーマ		内容
13	平成 29 年 4 月 ～7 月の間に受講	専門Ⅰ—5	施設見学②事例研究 ・グループでの見学	千代田区内外の施設（アーツ千代田 3331、千代田図書館など他 5 箇所）をグループ毎に見学した。
14	4 月 12 日（水）	基礎Ⅱ—3	コーディネーター① ・コーディネーターとは	コーディネーターとして、自分の思いを具体化するには知識や情報収集の技能が必要であることを学習した。
15	4 月 26 日（水）	専門Ⅰ—4	施設見学①事例研究 ・社会福祉協議会 ・ちよだボランティアセンター	センターの役割や機能、ボランティア団体の支援や活動のサポート体制や仕組み等について学習した。
16	5 月 10 日（水）	基礎Ⅱ—4	コーディネーター② ・コーディネーターの専門性と技術	グループに分かれて、関心がある課題について具体的に取り組み、発表した。
17	6 月 14 日（水）	基礎Ⅱ—5	ボランティアとプロボノ① ・今、求められるボランティアとは	ボランティアとマネタリー（有償ボランティア）について学習し、事例をもとに状況や立場について考えるグループワークも行った。
18	7 月 12 日（水）	基礎Ⅱ—6	ボランティアとプロボノ② ・プロボノの可能性	ボランティア活動におけるリーダーシップについて、事例をもとにグループで検討し、発表し共有した。
19	7 月 26 日（水）	専門Ⅰ—6	課題探求&振り返り ・見学や体験レポートを共有 ・課題探求	各施設のレポートを報告し、それだけでは読み取れない部分を質問することによって理解を深めた。
20	10 月 4 日（水）	習熟Ⅰ—1	オープンカレッジ企画会議①～テーマ～ ・オープンカレッジ企画会議①	「学びでつなごう 地域の輪」をテーマにグループにわかれて内容について話し合った。
21	10 月 18 日（水）	専門Ⅱ—1	専門Ⅱガイダンス事例研究への視点 ・地域とつながるボランティア活動～事例研究の視点から～	ボランティア活動をする人を取り巻く環境について学習した。
22	11 月 1 日（水）	習熟Ⅰ—2	オープンカレッジ企画会議②～詳細～ ・オープンカレッジ企画会議②	広報千代田掲載にあたり、内容、PR 方法等を話し合った。
23	11 月 15 日（水）	専門Ⅱ—2	事例研究① ・自治体の地域づくり政策と企業の CSR～岩手県遠野市・遠野みらい創りカレッジの試み～	地域活性化の取り組み、産官学民の協働のあり方について学習した。
24	12 月 6 日（水）	習熟Ⅰ—2	オープンカレッジ企画会議③～担当・役割～ ・オープンカレッジ企画会議③	広報千代田に掲載する内容について発表、各グループの進捗状況を共有した。
25	12 月 20 日（水）	専門Ⅱ—3	事例研究② ・農村地域を元気にする都市農村交流～熊本県山都町の地域おこしと発信～	都市と農村の交流と積極的な取り組みについて事例から学習した。

以降も実施中

4. 第2期生について

(1) 募集

①募集期間

平成 29 年 7 月 5 日（水）～8 月 17 日（木）

平成 29 年 8 月 22 日（火）～9 月 11 日（月）（二次募集）

②周知媒体

- ちよだ生涯学習カレッジ入学募集案内
区施設等に設置
- 広報千代田 7 月 5 日号
- ポスター
区施設及び区掲示板に掲示
- チラシ
マンション連絡会を通して 8 月に配布及び区施設等に設置
- 区ホームページ及び SNS、ちよだ生涯学習カレッジ専用ホームページ

③応募状況（2 次募集を含む）

応募者数は 19 名、内訳は以下のとおり。

年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
人数	1	3	4	8	1	2	19

区分	在住	在勤	在学	合計
人数	11	7	1	19

(2) 選考・入学

応募者 19 名を審査し、19 名全員の入学を決定した。また、第 1 期生として入学していた 1 名が留年を希望したため、新たに入学した 19 名に加え、20 名が第 2 期生となった。

(3) 授業の日程と内容

原則として火曜日 19 時～21 時

	日程	テーマ		内容
1	平成 29 年 10 月 3 日（火）	入学式	入学式&オリエンテーション ・入学式 ・オリエンテーション ・プログラム説明、自己紹介	第 2 期生 19 名が参加した。
2	10 月 17 日（火）	基礎 I—1	私、私の生き方 ・自分のキャリアを振り返る ・今後、地域社会とどう関わっていくのか ・ライフキャリア	「生涯学習」と「コミュニティ」の定義を学習し、生涯学習者としての生き方を考えた。

	日程	テーマ		内容
3	11月14日（火）	専門Ⅰー1	ガイダンスワークショップ ・問題意識の明確化と話し合いの基本	合意形成のトレーニングを実施し、多様性を知り、お互い納得して物事を進める過程を経験した。
4	11月28日（火）	基礎Ⅰー2	ちよだを都市として考える① ・ちよだのまちの成り立ち	都市計画・コミュニティ・歴史的視点など「ちよだ」を多角的に捉え、学習した。
5	12月12日（火）	専門Ⅰー2	生涯学習体験 ・自分の生涯学習・ボランティア体験を語り、仲間の体験を丁寧に聴く	「聴く」ことの大切さ、会話促進の「あいづち」を、実際に対話を通して身につけた。
6	12月26日（火）	基礎Ⅰー3	千代田学①事例研究 ・現代アートと地域 ・外神田と神田錦町での取り組みを中心に	「アーツ千代田 3331」の事例から、地域と共に発展する仕組みづくりを学習した。

以降も実施中

Ⅲ 『ちよだ生涯学習カレッジ』の課題の検討

1. 2コース目について

1 コース目の「学びと地域のコーディネーター養成コース」では、「学びと地域のコーディネーター」としての実践力に重きをおいたコース設定となっている。

2 コース目の検討にあたり、本会議において、各委員から、昨今の訪日外国人観光客の多さ、東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、千代田区の魅力の発信やアピールの必要性、そのための観光分野へのボランティアの誕生・活躍を期待する声が多くあがった。観光分野へのニーズに応じ、将来的なボランティアガイドとしての活躍も見据え、かつ、千代田区の都市としての魅力を内外に発信できる人材として、「千代田まちマイスター」という名称を創設し、このマイスターを養成するコースを設置する。

(1) 「千代田まちマイスターコース」

「千代田まちマイスターコース」では、「千代田まちマイスター」を養成する。「千代田まちマイスター」とは、千代田区の地理、歴史、文化などについて学び、まち歩きやワークショップ、インタビューなどを通じて、千代田という土地やまちに精通した人である。本コースでは、千代田区というまちの知識や教養を高め、まちの特性や構成要素を調査研究し、そこから新たな価値を見つけ、創造し、発信する力を身につけることを目的とする。

※「マイスター」という言葉について

マイスター制度はドイツ発祥の職能訓練制度。マイスターは「巨匠」や「親方」という意味で使われる一方、ある分野について学習し、精通した人への資格として使われることも多い。

(2) カリキュラム構成（案）

基礎Ⅰ 「千代田区学・コミュニティ論」（自分＝個人と地域、千代田区）

基礎Ⅱ 「生涯学習概論」（生涯学習入門、大人の学び合い）

専門Ⅰ 「シンボリックにみる千代田のまち」（概要・総論）

専門Ⅱ 「メディア的にみる千代田のまち」（各論・トピック）

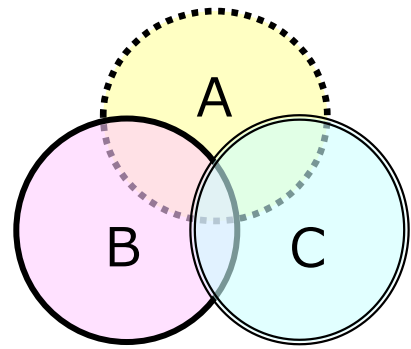
習熟Ⅰ 「千代田のまちを实践する」（実践・フィールドワーク）

習熟Ⅱ 「千代田まちマイスターへの道」（プレゼン・成果発表）

基礎Ⅰ、Ⅱは「ちよカレ」の共通科目と位置づけ、「学びと地域のコーディネーター養成コース」と共通授業とする。ただし、授業内容・運営の観点から別々の授業となる場合もある。

2. 卒業後の展望について

平成 30 年 7 月に初めての卒業生を送り出すにあたり、「学びと地域のコーディネーター」として認定を受けた卒業生が地域でデビューするまでの支援のしくみについて検討を重ねた。その結果、卒業生の主な活躍の場として考えられるのは、「A：ちよカレサポーターへの登録」、「B：人材バンク登録」、「C：千代田区内でのデビュー」となった。また、その具体的な内容について検討を重ねた結果、以下のようになった。



(1) A：ちよカレサポーターへの登録

ちよだ生涯学習カレッジの運営に参画し、学生や卒業生と交流をする。

① 在校生サポート

クラスチューター的存在として支援を行う。「ちよカレ」の各種委員会やイベント（オープンカレッジなど）にファシリテーター的な役割として参加する。

② ちよカレ生同士のつながり

卒業後も「ちよカレ」のつながりを生かせる場や同窓会のような企画など、ちよカレ生をつなぐ役割を担う。

③ 情報受発信

情報の収集や、「ちよカレ」ホームページの在校生ページ、フェイスブックの原稿を作成する。

(2) B：人材バンク登録

生涯学習を行う区民を援助するため、ボランティア・プロボノの「学びと地域のコーディネーター」として人材バンクに登録し、制度を活用する。

① 人材バンク登録

生涯学習団体からの求めに応じて、「学びと地域のコーディネーター」として紹介を受ける。

② 人材バンク活用講座の開催（講師応援型）

人材バンク登録者（講師）自らが企画した企画案を九段生涯学習館で募集する。選考を通過した場合には、「人材バンク活用講座」として、90 分程度の講座を 1～3 回、九段生涯学習館の講座として開催される。自らが講師として、講座の企画から実施に至るまで携わる。

③ 区民自主企画運営講座の企画（サークル活動応援型）

千代田区在住・在勤・在学者 5 名以上で構成する団体を対象に九段生涯学習館で募集する。企画案が選考を通過した場合には、「区民自主企画運営講座」として、120 分程度の講座を 3～5 回、九段生涯学習館の講座として開催される。団体自らが講師として活躍することも、企画運営のみを行い講師派遣を依頼することも可能。

(3) C：千代田区内でのデビュー

「学びと地域のコーディネーター」としてデビューし、活躍する。千代田区生涯学習連絡会を活用し、事務局は生涯学習施設及び関係機関等と相互連携する。そこで得た千代田区で公募するイベントや会議体の委員募集などの情報を、事務局が提供する。それらの情報を生かして応募し、自らにあったデビューをする。

① 事業や区政への企画や提案

千代田まちづくりサポート、区政モニターなど

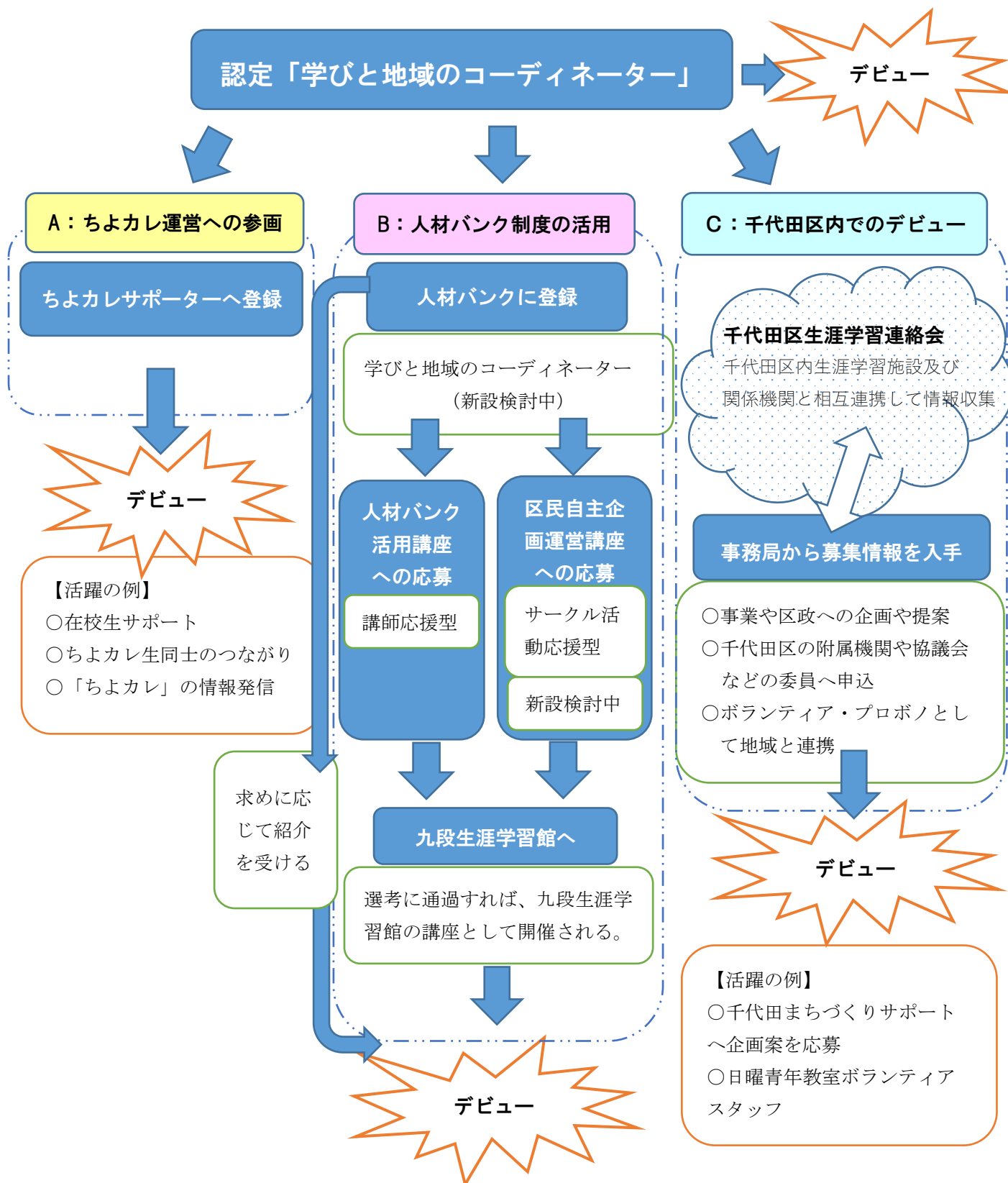
② 千代田区の附属機関や協議会などの委員

地域温暖化対策推進懇談会委員、生涯学習推進委員会委員など

③ ボランティアとして地域と連携・貢献

おもてなしボランティア、福祉まつりボランティア、日曜青年教室ボランティアなど

○デビューまでのイメージ（例）



IV 学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり

1. 千代田区生涯学習連絡会

第 11 期テーマである「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」を推進するため、また、ちよだ生涯学習カレッジ卒業生が学習の成果を地域で生かすための仕組みづくりに寄与することを目的に、千代田区生涯学習連絡会を開催した。

(1) 第 5 回会議：「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」の実施報告

① 実施日 平成 29 年 1 月 19 日（木）

② 内 容

生涯学習機関や関係機関による情報の共有化を通し、生涯学習ネットワークの構築をめざすため、平成 29 年度に「千代田区生涯学習連絡会」を設置の予定である。千代田区生涯学習連絡会に向けた準備会では、設置者、事務局、設置目的について概要説明を行った。

また準備会では、居住人口の増加等により地域コミュニティが変貌しつつある中、新住民に地域との関わりを持っていただくきっかけの一つの手段として、生涯学習が良いツールになる等の意見があった。

(2) 第 7 回会議：「千代田区生涯学習連絡会設置要綱(案)」の提示

① 内 容

事務局より、千代田区生涯学習連絡会設置要綱(案)を提示し、設置目的や構成団体所掌事項等について説明を行った。また、平成 29 年 9 月 15 日（金）開催前にちよだ生涯学習カレッジ卒業生の活躍できる可能性がある場や連携・協力を図りたい事業等について、アンケート調査を行い情報収集していく等を報告した。

② 推進委員の意見

- ・開催数「年 1 回以上」では、開催に消極的に見える。
⇒別の会議で「年 2 回」と決めて、形骸化してしまっているものがある。状況に応じて柔軟に対応できるようにこのような表記にした。
- ・たくさんの機関が集まるので、部署や行事紹介で終わらないようにしてもらいたい。交換した情報を活用していくために、事前準備をしっかりとる必要がある。
- ・時季限定のイベントもあり、年間を通じて各機関の情報を把握する必要がある。
- ・学社連携の視点から、直接の学校関係者が入っていたほうがよい。
⇒構成団体は、連絡会の進展を見据えて拡充する方向で検討していく。
- ・「千代田区『定期』連絡会」と「定期」を入れてみたらどうか。
⇒「千代田区生涯学習連絡会」でスタートする。

千代田区生涯学習連絡会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、千代田区生涯学習連絡会（以下「連絡会」という。）を設置し、連絡会を通じて生涯学習施設及び関係機関等（以下「学習施設等」という。）の相互連携の体制を構築することにより、千代田区内に集積する生涯学習の資源等の有効活用を図り、もって千代田区における生涯学習の振興に資することを目的とする。

(構成団体)

第2条 連絡会の構成団体は、別表のとおりとする。

(所掌事項)

第3条 連絡会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 学習施設等における生涯学習の資源等の情報交換に関すること。
- (2) 連絡会の構成団体が協力して実施する事業に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、連絡会が必要と認める事項に関すること。

(開催等)

第4条 連絡会は、年1回以上開催するものとする。

2 連絡会は、地域振興部生涯学習・スポーツ課長が招集する。

3 連絡会は、必要に応じ、構成団体以外の団体の者を出席させることができる。

(事務局)

第5条 連絡会の事務局は、地域振興部生涯学習・スポーツ課に置く。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、その構成団体の協議により定める。

附 則

この要綱は、平成29年8月18日から施行する。

別表（第2条関係）

区分	名称
民間事業者	アーツ千代田3331
	社会福祉法人千代田区社会福祉協議会
	公益財団法人まちみらい千代田
	一般社団法人千代田区観光協会
公的機関	千代田区立千代田図書館
	千代田区立日比谷図書文化館
	千代田区立九段生涯学習館
	千代田区立スポーツセンター
行政	教育委員会事務局子ども部指導課
	教育委員会事務局子ども部児童・家庭支援センター
	地域振興部コミュニティ総務課
	千代田区役所麹町出張所、同富士見出張所、同神保町出張所、同神田公園出張所、同万世橋出張所、同和泉橋出張所
	地域振興部生涯学習・スポーツ課

(3) 第8回会議 : 平成29年度「千代田区生涯学習連絡会」の実施報告

■ 報 告

① 実施日 平成29年9月15日(金)

- ② 議 題 ・千代田区生涯学習連絡会の目的について
- ・出席者自己紹介(生涯学習施設及び関係機関等の担当者計16名)
 - ・千代田区生涯学習連絡会に関するアンケート結果について
 - ・情報交換

③ アンケート結果 (全19機関)

▽地域活動に参加する人の受け入れ

- ・可能性がある11機関/可能性はない2機関/どちらともいえない6機関

▽生涯学習活動に生かせる他の機関と連携・協力

- ・図りたい7機関/検討中3機関/不明または未記入9機関

▽意見等

- ・年4回程度の定期的な開催を希望
- ・出張所の参加は代表して1所のみでよいと思う
- ・MIWも構成団体に加えてほしい
- ・地域の声、要望を聞き、会場提供を含めどのような関わりをもてるのか検討したい

④ 情報交換

- ・かがやき大学には多くの高齢者が受講している。チラシ配布の際には活用頂きたい。
- ・類似の事業を行っている機関とは、年間計画立案の際、日程調節や内容等について事前に調整して連携していきたい。

⑤ 事務局から

- ・「学びと地域のコーディネーター」としてどのようなスキルやポテンシャルを発揮してくれるのかかわからない、という意見があった。具体的にカレッジ卒業生の参画を考えてもらう上では、卒業生の能力についてもう少し見える化が必要である。
- ・今後、地域の意見やニーズをどのように情報収集してフィードバックしていくか、連絡会の回数を重ねながら深めていきたい。

■ 推進委員の意見(実施報告を受けて)

- ・「出張所の参加は代表して1所でのよいのではないか」という意見について、出張所は「区内6出張所の代表」として捉えている可能性がある。出張所は「町会等の各地域をとりまとめる出張所」として出席してもらいたい旨を、改めて説明する必要があるのではないかと。
- ・「ちよカレ」の学生の中で町会との関わりがある方はどれくらいいるのか。「ちよカレ」と町会をつなぐ役目を出張所に果たしてもらいたい。
⇒町会をテーマに挙げている学生は何人かいる。
世代交代や新旧住人との問題を解決できるようなコーディネーターを養成していきたい。

2. 学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク

(1) 「学び」のネットワークを紡ぐ意義

言うまでもなく、ネットワークとはある目的のために多様な人や組織をつなげる仕組みであり、これを織物に例えれば、縦糸と横糸の交差によって織りなされた形状を意味することになる。

そのネットワークを織りなす「縦糸」とは、「学び」が発展的に進められるよう、学んだことを更なる学びにつなげたり、その成果を地域活動に生かしたりすることができるような側面である。一方、その「横糸」は、「学び」に係る特定の目的に向けて、多様な「学び」の場を活用し、また学習事業提供者などが異なる角度からその場を提供することを言う。また、地域活動を「学び」の場として捉えれば、地域と学習の場との往き来の過程ということになる。

ところで、「学び」は様々な形態で行われ、生涯学習分野については、個人学習、グループ学習、施設利用学習(図書館利用など)、講座などの学習事業参加などによって行われている。また、学習の場は、区役所など公的機関や民間学習事業所、民間企業、ボランティアセンターなど実に多様である。しかし、そうした「学び」は縦糸で結ばれていないと、学習が深まりにくかったり、学習成果を生かす場がなかったりする。また、それが横糸で結ばれていないと、学習の幅が狭くなり、あるいは、学習の事業が競合したり、あるいは必要な学習事業が実施されないままであったりすることがある。

そうした実情を踏まえると、「学び」のネットワークには、「埋める」「正す」「創る」という3つの機能が期待されるのである。「埋める」とは、必要な「学び」やその「場」がない場合にはそうした「学び」を設定し補充することを意味する。「正す」は同じような内容の「学び」が競合している場合には、これを検討し直して、他の「学び」の場に切り替えるなどして補正することである。そして、「創る」とは新たな「学び」の形態・方法や内容を生み出すことや「学び」の成果を地域に生かす方途を設けることなのである。これら3つの機能を果たすためには、ネットワークには、主体間の情報交換・共有、相互補完(主体が他者のために協力すること)、協働(複数主体が一つを協力して取り組むこと)が行われる必要がある。

(2) ネットワークにおける「ちよカレ」の位置

以上のようなネットワークの中で、「ちよカレ」がどのような位置を占めるのか。まず、「学びと地域のコーディネーター養成コース」は、これまでの学習を発展的に学ぶ場となり、また卒業後には更なる「学び」やコーディネーターとして地域活動を担う人材養成という点では「縦糸」の位置を占める。

そして、在学中には、地域活動や他の「学び」の場を活用しながら、深い「学び」を展開するための拠点になるという意味で「横糸」に位置づく。その意味で、「ちよカレ」は「学び」を完結する場ではなく、多様な「学び」を展開するための拠点(ハブ)になると言ってよい。「ちよカレ」は2年間36回の授業が組まれているが、学生にはその間に地域活動を含む他の「学び」につなげていくことが期待されるのである。

(3) ネットワークづくりに果たす「ちよカレ」の役割

以上のように捉えると、ネットワークづくりに果たす「ちよカレ」の役割は、以下の点にあると考えられる。

①「埋める」視点

今、あるいは今後必要とする「学び」を随時取り入れていくことである。今回の本報告書では千代田区の新たな魅力を発見し、これを発信する人材の養成を提言したところであるが、このコースの設置が「埋める」ことだと言える。今後、新たなコースの設置をし、さらに埋めていくことも考えられる。

②「正す」視点

1 コース目で養成される「学びと地域のコーディネーター」は、学習の場などが断絶されがちな実情を「正す」ための役割を担う。こうしたコース設置以外にも、「ちよカレ」が「学び」の競合等を調整し、多様な「学び」に関わる情報発信を行うことも今後期待されてくる。

③「創る」視点

1 コース目の「学びと地域のコーディネーター」や2 コース目の「千代田まちマイスター」は、新たに創られる千代田区独自の資格になる。今後、そうした資格にこだわらず、「学び」を促し、発展させるためのインセンティブになる「仕掛け」づくりを進める役割を果たすことが求められるであろう。

以上の3つの視点には、ネットワーク内の情報交換や相互補完、協働を要することになるが、「ちよカレ」にはこれらの視点を踏まえつつ、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク」の縦糸と横糸をうまく織りなす役割が期待されるのである。

V 今後の課題と展望

今期の生涯学習推進委員会議の主たる目的は、「ちよカレ」の在り方自体の協議というよりも、区民による縦横の学びをいかに紡いで織りなし、これを地域に結びつけるための仕組みの在り方を検討することであった。そのための一つの方策として「ちよカレ」の卒業生のフォローと新たなコースづくりについて協議してきたところである。そうした意味で、「ちよカレ」の今後の在り方を含めた千代田区における生涯学習のネットワークづくりについて、今後の課題と展望について最後に述べておきたい。

(1) 学習情報提供の工夫

学びを紡ぐためには、まず多様な学習情報が不可欠になる。情報提供は「流し素麺」に例えられ、いくら情報という名の素麺を筒に流しても、箸(パソコンや情報端末)を持っていない人は食べられず、食欲のない人(その時に学習意欲が高くない人)は見過ごししてしまう。また、よそ見していれば(多忙であったりする人)、そのまま素麺は流れてしまう。情報の流し手と受け手のタイミングが大事である。

そこで、箸を持たない人でも素麺がすくえるように、多様な媒体で情報を提供し、食欲のない人でも食欲がわくような演出、すなわち情報コンテンツの魅力化などが必要だろうし、また情報を見逃さないよう、できるだけ長期間にわたって情報を提供していくのである。そして、区内の「学びの機会と場」を集約し、一元的に提供していくような仕組みの構築が課題になるう。

(2) 学びのコンシェルジュの養成

これまで、地域における学びのコーディネーターの必要性を指摘きたところだが、その役割は「ちよカレ」の「学びと地域のコーディネーター」養成コースの卒業生に期待されている。その「学びと地域のコーディネーター」は「学び」を紡ぎ、地域に結びつける役割を担う。これに加えて、何を学び、どこで学び、どう学ぶかという情報を掴んでいない人や学習上の課題を抱えている区民等に対して、多様な要望に応える「学びのコンシェルジュ」の存在が求められるであろう。

そこで、「ちよカレ」卒業生がコンシェルジュにふさわしい人材として活躍できるよう研究生に位置づけることも検討されてよい。そして、研究生期間終了後には生涯学習館などで活動してもらい、また「学びと地域のコーディネーター」に対するアドバイザー役も担うようにすることも考えられる。

(3) 千代田区生涯学習連絡会の充実

区内生涯学習施設及び関係機関から成る千代田区生涯学習連絡会は、学びの情報を収集・調整していくために大きな役割を果たすことになるう。関係部署の所管を超えて、多様な学びの情報を縦と横に紡ぎ、これを施策に生かすための重要な場になるはずである。今後は「学びと地域のコーディネーター」や民間事業所の関係者も交えて、さらに会議も充実を図ることが課題になる。現時点では試行的に進められているが、会合を重ね、千代田区における生涯学習の在り方を実質的に検討し、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワーク」づくりに資するような活動を期待したい。

本生涯学習推進委員会議は、これまで学びのコーディネーターの在り方を検討し、その配置等について提言してきたが、この度「ちよカレ」の開設によって第1期卒業生が区内外に学びのコーディネーターとして活躍していくことになる。その結果、学びのネットワークづくりは徐々にではあるが、現実味を帯びてきたところである。しかしながら、区内でコーディネーターとして活躍できる場には限りがあり、その結果、コース受講者数の減少も見込まれる。

そこで、そうした状況も想定しながら、「ちよカレ」では2コース目以降もコースの内容を検討し、様々な学習ニーズを持つ区民(在勤を含む)の期待に応えるようにするとともに、将来的には区外在住者の受け入れを検討していけば、学びのネットワークは千代田区を同心円とした形で区外にも広がっていくことになるう。そうしたネットワークの広がり、区民自身も区外からも学びの刺激や情報を得ることになり、結局は区民の学びを豊かにすることにつながるものと思われる。

そうした意味での「学び」の広がりを期待して、本報告書の「おわり」に代えたい。

第 11 期千代田区生涯学習推進委員会 開催経過

開催回	開催日	主な議題	検討内容・決定事項など
第 1 回	平成 28 年 5 月 20 日	●委嘱状交付 ●区長挨拶 ●会長及び副会長の選任 ●第 10 期報告書について ●会議スケジュールについて ●「ちよだ生涯学習カレッジ」の募集(案)とカリキュラム(案)について	●会長に佐藤委員、副会長に前田委員を選任 ●委員の自己紹介・生涯学習との関わり等について発表 ●報告書を用い、(仮称)生涯学習大学についての検討内容を確認 ●事務局からの案に対する検討
第 2 回	7 月 21 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」入学募集開始の報告 ●「ちよだ生涯学習カレッジ」2 コース目の学科について	●募集広報の方法について意見交換 ●2コース目の素案をもとに、テーマやキーワード、アイデアについて意見交換
第 3 回	9 月 2 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」ハンドブック(案)について ●「ちよだ生涯学習カレッジ」学びと地域のコーディネーター養成コース第 1 期生募集結果の報告 ●「ちよだ生涯学習カレッジ」卒業後の展望について(説明)	●事務局からの案に対する検討 ●第 1 期生の年齢等構成について確認 ●卒業後の展望について、事務局から 3 つの可能性について説明
第 4 回	11 月 25 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」卒業後の展望について(検討) ●「ちよだ生涯学習カレッジ」入学式開催と第 3 回目までの授業の報告 ●「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」について	●活動の可能性について、意見交換 ●第 1 期生の現状について報告 ●連絡会の設置に向けた準備会について、開催予定の説明
第 5 回	平成 29 年 2 月 7 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」2 コース目の学科について ●「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」報告 ●今期後半のテーマについて	●2コース目の考え方と名称について検討 ●準備会の実施結果について報告 ●テーマについて自由意見
第 6 回	5 月 19 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」2 コース目の学科について ●「ちよだ生涯学習カレッジ」第 1 期生の現状報告 ●「ちよだ生涯学習カレッジ」第 2 期生の募集について ●今期後半のテーマについて	●2コース目の名称が「千代田まちマイスターコース」に決定 ●第 1 期生の現状の報告と、欠席者について意見交換 ●第 2 期生に配布予定の資料や募集広報について意見交換 ●今期後半のテーマが「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」に決定
第 7 回	8 月 2 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」第 2 期生の募集状況について ●「千代田区生涯学習連絡会」設置要綱(案)について ●「ちよだ生涯学習カレッジ」認定「学びと地域のコーディネーター」卒業後の展望について	●第 2 期生の募集状況と募集広報について意見交換 ●連絡会の設置について意見交換 ●3 つの可能性をもとに、意見交換
第 8 回	10 月 20 日	●「ちよだ生涯学習カレッジ」について報告 ●「千代田区生涯学習連絡会」の実施報告 ●「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」について自由討論	●第 1 期生の進級状況と第 2 期生の入学状況について報告 ●連絡会の実施報告に基づいて、意見交換 ●ちよカレ内や企業や地域とのネットワークについて議論
第 9 回	12 月 19 日	●「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」について最終討論 ●今期の報告書の作成について	●ネットワークづくりのために必要となる卒業生自身の希望や地域の需要について議論 ●報告書の構成案と今後のスケジュールの確認
第 10 回	平成 30 年 3 月 16 日	●第 11 期報告書を区長へ提出 ●区長と意見交換(懇談)	



生涯学習推進員会議だより『エポック』



生涯学習推進委員会議で話し合われた内容を、
『エポック』として発行しています。

発行：平成 28 年 7 月～平成 30 年 2 月
(No.96～104)

第11期千代田区生涯学習推進委員会議がスタートしました。



平成28年5月20日、第11期千代田区生涯学習推進委員13名が区長より委嘱され、第1回の生涯学習推進委員会議が開催されました。

会長には日本大学文理学部教授の佐藤晴雄氏、副会長には早稲田大学大学院教育学研究科教授の前田耕司氏が就任されました。第11期の第1号である今号は、7月5日に募集開始となりました「ちよだ生涯学習カレッジ」の概要等をご案内いたします。

石川区長 挨拶

第11期の生涯学習推進委員会議の発足にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。私が関わってから8年でございますが、生涯学習というものを学校教育というフィールドだけで考えるのではなく、もっと幅広い枠組みのなかで考えるべきだと思います。あるいは社会教育という言葉がありますが、それをより幅広く考えるべきだという思いがありまして、区の教育委員会から区長部局のほうに所管を移してこの生涯学習推進委員会議をスタートして、現在に至っているわけでございます。今期の最大の議論は、第9期、第10期の答申にございました「生涯学習大学の創設」とその内容の肉付けということになるかと思しますので、重ねてお願いをしたいと思います。特に今の時代は、生涯の学びこそ青春であると私は思っており、社会的に見てもそのニーズは非常に多いと思います。学びというのは主体性が重視されますから、学ぶことによってそれを自分の問題として地域や社会にどういった形で自分を生かしていくかが重要になって参りますので、その中身をお進めいただくことをお願い申し上げます。私からの挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。



第11期千代田区生涯学習推進委員	
任期 28年5月～30年3月 敬称略	
会長	※佐藤 晴雄(日本大学文理学部教育学科教授)
副会長	※前田 耕司(早稲田大学大学院教育学研究科教授)
委員	服部 元(御茶の水美術専門学校副校長)
	松井 千恵子(昌平評議会コミュニティ・スクール運営委員会)
	鈴木 やす代(千代田区障害者共助会)
	武藤 祐子 千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター長
	安田 郁子(千代田区文化芸術協会 副理事長)
	※藤井 敬子(千代田区スポーツ推進委員協議会)
	※木村 由香(千代田区青少年委員会)
	※吉田 和仁(和洋九段女子中学校高等学校教頭)
	※淺川 宏(千代田区立お茶の水小学校校長)
	丸山 輝(公募区民)
	杉森 一恵(公募区民)

※は社会教育委員兼任

会長・副会長就任の挨拶

◆佐藤会長

日本大学の本部は千代田区ですが、世田谷キャンパスで社会教育・生涯学習を担当しています。生涯学習推進委員会には第8期から委員を務めております。

一般的な生涯学習の事業は、10回程度を一区切りとして終えることが多いのですが、これから開校される「ちよだ生涯学習カレッジ」は、2年間と言う長期にわたる学習の機会を提供してきます。そこでは、今後、「人材養成」ということが課題になるかと思えます。新たに加わった委員の方々にも刺激を与えて頂きながら今後の進行を務めたいと思えます。よろしくお願いいたします。

◆前田副会長

私はこの会議は初めてでございますが、これからいろいろと学ばせて頂きたいと思えます。

社会教育・生涯学習につきましては、佐藤先生の方が本流で、私の方は少々マニアックな研究をこれまでやってきております。社会教育の国際化の問題について興味を持って、オーストラリアとかイギリスのことについてやっております。

微力ながら、千代田区社会教育・生涯学習の発展に少しでも貢献できたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

■第11期生涯学習推進委員会会議の主な検討内容

～第10期の報告書を踏まえ、第11期の会議における主な検討事項について確認がなされました～

○平成28年10月5日に入学式を予定している「ちよだ生涯学習カレッジ」開校に向けた課題整理

- 「ちよだ生涯学習カレッジ」の管理運営に関する点検・評価
- 「ちよだ生涯学習カレッジ」の2コース目の学科について
- 卒業生が「学びと地域のコーディネーター」として地域で活躍できるしくみについて
- 千代田区における生涯学習ネットワークづくり

「ちよだ生涯学習カレッジ」の入学募集(案)について ※事務局より

●募集コース

「学びと地域のコーディネーター養成コース」

●キャンパス

区全体がキャンパスとなり、見学や体験などを行う。

講義の授業は主に「千代田区立九段生涯学習館」

●授業

2年間で36回

講義形式以外に、生涯学習やボランティアの現場見学や体験、ワークショップなどの多様な方法を取り入れる。

●定員

30名

●授業料

年間1万円(2年間で2万円)

●開校・入学式

平成28年10月5日(水)



＜質疑応答・意見交換など＞

○授業料について

【質問】

区のバウチャー制度は適用されるのか。

【回答】

バウチャー制度の対象に、当カレッジのメニューは入っていないため適用はされない。その旨は「ちよだ生涯学習カレッジ」HP内、「よくあるご質問」に掲載する予定。

○卒業要件について

【意見】

学生のモチベーションを向上させるために、「これを乗り越えたとコーディネーターになれるのだ」という動機づけが必要だと思う。

○在勤・在学者への募集案内周知について

【質問】

在住者は自宅に届く「広報ちよだ」により募集の確認ができるが、在勤・在学者への周知はどのようなツールを利用していくのか。



【回答】

区のHPのみならず、ツイッターやフェイスブックをはじめとしたSNS機能等も活用して、情報発信の工夫をしていく。

＜調整中の事項について＞

前期から引き続き調整中の事項について検討した結果、以下の内容を決定し、入学募集案内に反映しました。

①卒業要件について

- ・各単元の6回授業のうち4回以上、および全36回のうち28回以上の出席
- ・授業における習熟度が一定の水準に達しているとコース長が認めること。

②卒業後について

- ・千代田区より「学びと地域のコーディネーター」として認定。千代田区生涯学習人材バンクや当カレッジサポーターに登録し、学習成果を地域で生かせる制度も用意する。

③選考方法(申込み資格)について

- ・20歳以上(2016年10月1日現在)
- ・千代田区内在住、在勤、在学
- ・2年間継続して学ぶことができ、学習成果を地域活動やボランティア活動等へとつなげる意欲のある方。



♪生涯学習推進委員の役割について♪

○生涯学習推進委員は、生涯学習施策の効果的な推進を図るため、平成8年4月に発足した制度であり、学識経験者・生涯学習関係団体代表者・区内の学校長・公募の区民から構成され、生涯学習推進委員会議で検討した事項について、区に対して意見や提言を行っています。

○第11期の任期は平成30年3月までの2年間で、全10回(年間5回程度)の会議を予定しています。



今期のリレー随筆は、
前田副会長からスタートです！

リレー随筆 ～NO.1～

「生涯学習カレッジ」への期待

前田耕司



今秋、「ちよだ生涯学習カレッジ」がスタートします。生涯学習を推進するための「地域のコーディネーター」の養成や千代田学など「区民意識」の涵養についての学習を両輪に、学習の成果を地域貢献に活かすことが「カレッジ」の事業効果として期待されます。初年度開講の「学びと地域のコーディネーター養成コース」では、地域づくりの担い手の育成や地域ボランティアとして活動するために必要な基礎知識やスキル、心構えを学んだ後、「習得した知識や学習成果を地域社会や市民生活に還元する」という観点にたって、地域貢献やまちづくりなど学習成果を活かす体験がさらなる学習意欲を育むという、生涯学習の循環の仕組みの構築が目指されているといえます。

コースでは、地域に一歩足を踏み出してもらうきっかけとなるような地域活動の具体的な話を聞き、意見交換やグループワークなど参加者との交流を深めながらボランティアとしての基本的姿勢やコミュニケーションへの心配りなどについて学び、地域デビューにとって必要なモチベーションを仲間と共有することの意義を見いだします。カレッジでの「学び」が人と人をつなげ、やがてこうした人間関係の紐帯は地域コミュニティの再生に向けて千代田の生涯学習の大きな推進力となっていくことでしょう。

【編集後記】

第11期第1回のエポックをお読み頂きありがとうございました。新たな委員の方々8名をお迎えし、今期もいよいよスタートを切ることとなりました。

第1回目の会議は「ちよだ生涯学習カレッジ」の概要確認、そして10期から引き継いだ検討事項についても十分意見を交わすことができ、たいへん有意義な会議となりました。

委員の皆様には、第2回会議でも熱いご意見、感想をご期待申し上げます。また、リレー随筆をお引き受けくださった前田副会長にも心から感謝申し上げます。

～編集・発行～

千代田区地域振興部生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL：03-5211-3632
FAX：03-3264-1466
Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

第11期第2回概要報告

平成28年7月21日(木)、第2回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。

7月5日より開始された「ちよだ生涯学習カレッジ」の学生入学募集について、募集内容と説明会開催の報告と意見交換を行いました。さらに、平成30年から開設となる2コース目の学科等について話し合いました。

以下、概要をお伝えいたします。



「ちよだ生涯学習カレッジ」入学募集について

1. 募集開始年月日

平成28年7月5日(火)～8月19日(金)

2. 広報ツール

- ①「ちよだ生涯学習カレッジ」第1期〔2016〕入学募集案内
- ②「ちよだ生涯学習カレッジ」ちらし
- ③「ちよだ生涯学習カレッジ」ポスター
- ④広報ちよだ7月5日号(第2面)
- ⑤「ちよだ生涯学習カレッジ」専用ホームページ
(千代田区ホームページ、千代田区公式フェイスブック・ツイッター、九段生涯学習館ホームページからリンク)

3. 「ちよだ生涯学習カレッジ」ロゴ



～「ちよだ生涯学習カレッジ」の(chiyoda)と(college)の頭文字 CC を用いてつながりや循環を示す輪を表現～

※入学募集案内の表紙や専用 HP に掲載

説明会について

1. 日にち

平成28年7月20日(水)、8月3日(水)

2. 時間

19時～20時30分

3. 会場

九段生涯学習館 3階第一学習室



4. 主な説明事項

「ちよだ生涯学習カレッジ」開校までの経緯、カレッジの理念や方針、申込み方法、卒業要件、カリキュラムの特徴等。

5. 参加者からの主な質問

- ・「ちよだ生涯学習カレッジ」がモデルとした他の大学はあるのか
- ・選考はどのようなかたちで行われるのか

2コース目の学科について

平成30年10月より開設される2コース目の学科の具体化に向け、第10期より交わされている検討経緯の情報共有を行うとともに、事務局より3つの分野の素案を提示し、委員から意見を頂きました。

【第10期の経緯】

①第5回会議

(仮称)生涯学習大学の2コース(案)が決定

- ・生涯学習コーディネーター養成コース
- ・ボランティア養成コース

②第9回会議(1)

●1コース目が決定

- ・学びと地域のコーディネーター養成コース

③第9回会議(2)

●2コース目の候補として3つの(素案)が決定

- ・おもてなしのコーディネーター(養成)コース
→千代田区の観光をリードする
- ・和のコーディネーター(養成)コース
→日本の伝統文化やUNESCO無形文化遺産である「和食」を伝える
- ・暮らしと地域のコーディネーター(養成)コース
→環境・福祉・防災などの暮らしに関わる

【第11期：事務局からの(素案)】

▽おもてなしや観光の分野

キーワード：「おもてなし」「観光」× 千代田区

千代田区ならではの何かしらに特化したボランティアガイドが考えられる

(例)◎江戸城があったことから、江戸に特化したガイド

→卒業後、既存の「江戸歴史散歩ボランティアガイド」等で活動

◎大丸有があることから、街歩きに特化したガイド

→卒業後、既存の「丸の内ウォークガイド」等で活動

課題：千代田区観光協会とどのように絡んでいくか



▽和文化・日本文化の分野

キーワード：「和」×「地域」× 千代田区

知識等の習得だけではなく、皆が元々持ち合わせている知識や技能を活かし、そこから新しい価値を創造・発信させたい。まずは「衣」「食」「住」に分類

(例)◎衣・・・着物や古典芸能 ◎食・・・和食 ◎住・・・建築や工芸

課題：「和」といっても範囲は多岐にわたるので、どのように特化し魅力を見出していくか

▽暮らしと地域の分野

キーワード：「生活」×「地域」× 千代田区

生活と地域という生活に一番密着したところで環境や福祉、防災などの地域、もしくはどれか一つの分野に特化させる。

課題：生活に密着した部分が多いため、既存の組織やボランティアが存在する。それら関連する方々との兼ね合いにどのように配慮していくか。

【質疑応答・自由意見など】

○「おもてなしや観光の分野」について、千代田区には歴史の舞台となる様々な建物もあるので、「この建物の前には元々何があった」「そこでは誰がよく歩いていた」といったことを勉強できれば魅力的だと思う。

○「和文化・日本文化の分野」について、千代田区には商業関係の組合がたくさんあるので、そこでご商売されている方々と区民とを繋げるコーディネーターを養成すれば、カレッジの規模が大きくなった時に、千代田区の経済的な活性化にも繋がるのではないかと。

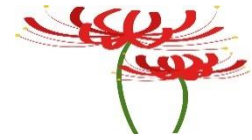
○2コース目は「もう少し具体的に活動したい」という人向けのアプローチなのか。
⇒そこまでは決めつけていない。

○2コースを受講しても1コース受講しても、どちらでも良いのか
⇒1人の人が2コースを受講してしまうと、より多くの方に学んでいただく事が難しくなるため、現在のところ2コース選択は想定していない。

○1コースにしても、選択科目のようにして他のコースに一部分だけ参加できるようなシステムがあっても良いと思う。



○私は千代田区で生まれ育った区民であるが、区内に引っ越してきて日が浅い人や在勤者を主な対象とするのであれば、ぜひ町会の重要性を学んでいただきたい。例えば防災でも、町会が核となり活動しており、町会加入をして初めて防災訓練の存在を知ることもある。そこから消防団に入ってみようかと考える方も出て来るかもしれない。



○「おもてなしや観光の分野」では、未経験者が2年間で3か国語を習得するのは現実的ではないと思う。それよりも、翻訳アプリなどを駆使しておもてなしが出来る人材を育成する方が、3か国語以上を扱えることにも成り得るので効果的である。また、観光案内の際は日本人同士、日本人と外国人同士でも、相手を不快にさせない言葉遣いが基本となる。よって、正しい・美しい日本語の習得に力を入れるべきだ。

○「暮らしと地域の分野」では、震災などの混乱した状況下で物事を的確に判断し、コーディネートできる人材を育成出来たら良いと思う。単なるサークル活動ではなく、知識や技能をきちんと学んでいくべきである。



○「おもてなしや観光の分野」について、半日や夜間など、限られた観光時間しか持っていない人向けの観光プランを提供できる人材の養成をすると良いのではないかと。そうすれば、観光本には書いていないような、生きた観光へと繋がると思う。

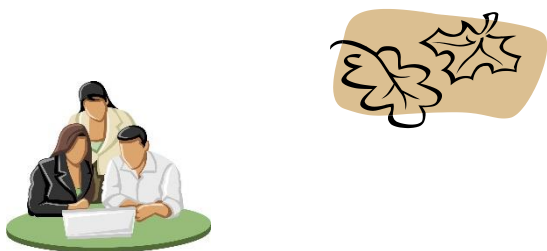
○古典も含めて日本語の部分からしっかり関わっていけると、とても良いと思う。

○当カレッジで習得した成果を、書物の上で発信できるコースにしたらどうか。日本人や外国人、また、千代田区在住者でもカレッジの事を知らない人もいます。そういった方々へ広く発信可能なカリキュラムを組み、卒業後の活動へ活かしていくのが良いのではないかと。

○最近はお寿司の握り方について学びたがっている外国人が大勢いると聞いたことがあるので、そういったプランを用意するのも良いと思う。

○近年、外神田や秋葉原等へ観光で来る外国人が、「学生ホテルへ宿泊するのが夢だった」と話していたり、ロボットレストランというものに興味を抱いていることを知った。日本人と外国人では楽しみ方の角度に違いがあると思うので、おもてなしや観光分野の対象者を選ぶことは凄く難しいと感じる。

→対象者の例外を外国人に限らず、地域の方でも上記のようなものに関心をお持ちの方が居るかもしれない。その辺を視点としていくのも面白いと思う。



～編集後記（事務局より）～

今号も、お読み頂きありがとうございました。

主に2コース目の学科について委員の皆様より頂いた多角的なご意見を中心にお送りいたしました。今後の検討に向けた良い弾みとなったと思います。次回の第3回会議では、学則や卒業後の展望について議論を深めていきます。

また、リレー随筆をご担当頂いた服部委員へ心より御礼申し上げます。次回エポックもよろしく願いいたします。

ーリレー随筆 No.2ー

「千代田区の持つ可能性について」

服部 元

今回、私は千代田区生涯学習推進委員のご縁をいただくにあたり、改めて千代田区にて実施される教育の効果について思索を行いました。なぜなら、私にとって駿河台は父祖の地であり、御茶の水美術専門学校は、創立以前は私の曾祖父、服部廣太郎の私邸だったからです。

日本には、旧くから町内会に代表される地域ごとのコミュニティがあり、本来ここが生涯学習を担ってきました。しかし、情報収集が容易になった今、人々は社会情勢に左右されながらも移動を繰り返し、従来にない新しいコミュニティを形成するようになりました。特に日本の中心である千代田区では、移住者の集中と拡散が繰り返され、新旧コミュニティが入り乱れている状況にあると言えます。

ここで、教育に携わる者として、千代田区の持つ教育の可能性について検討したいと思います。まず、昼間人口が多いことは、複数の人間が集まりコミュニケーションを促進できる状況にあることを意味します。次に、多様な職種や立場の人間が集まっていることは、互いの価値観を交換し合える機会が存在していることを意味しています。そして、移住者の多さは、幅広い世代の人間が集まり、互いの体験を共有できる契機が訪れたことを意味しています。千代田区ほど多様性に満ちている地域は他にありません。私は、生涯学習を通じて千代田区に縁がある多くの人々が共に学び合い、人と出会う喜びを何度でも体験できる場になるよう願っています。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南 1-2-1
TEL : 03-5211-3632 / FAX : 03-3264-1466 / Mail : shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

epoch

エポック No98

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～
平成28(2016)年11月 発行



第11期第3回 概要報告

平成28年9月2日、第3回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は、「ちよだ生涯学習カレッジ」の応募状況のご報告とともに、かねてより作成していましたカレッジの学則にあたる「ちよだ生涯学習カレッジ ハンドブック（案）」や、学生の卒業後の展望について事務局から（素案）をお示しするなど多岐に渡る議題を扱いました。

委員の方々からは活発なご意見・ご感想を頂き、前回同様充実した会議内容となっております。

以下、議事概要をお送りいたします。

学びと地域のコーディネーター養成コース第1期(2016)募集結果

- 入学生数：35人
- 選考：入学願書に基づき選考のうえ、決定した。
- 学生内訳



年代		20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
人数		1 名	5 名	2 名	1 8 名	8 名	1 名	3 5 名
性別	男	1 名	1 名	0 名	5 名	4 名	0 名	1 1 名
	女	0 名	4 名	2 名	1 3 名	4 名	1 名	2 4 名

区分	在住	在勤	計
人数	23名	12名	35名

モニターコース参加者
5名

●事務局からの報告

- ・30名の募集のところ、35名の応募があった。35名までは本会議において、授業・実習・演習に支障のないカレッジ運営が可能であると判断した。
- ・選考の結果、入学要件に抵触する方は無く、願書に記入していただいた応募動機と作文「あなたにとって学びとは」のいずれも選考基準を満たす内容であり、全員の入学を決定した。
- ・学生を年代別にみると、20代から70代の方まで幅広い世代の方々の応募があった。

「ちよだ生涯学習カレッジ」ハンドブック(案)について

「ちよだ生涯学習カレッジ」の学生生活を送る際の「ちよだ生涯学習カレッジ ハンドブック (案)」の内容をお示しし、会議の中で質疑応答をお受けしました。その後、委員の方々から頂いたご意見を基に名称を「ちよだ生涯学習カレッジ 学生生活ハンドブック 2016」と改め、下記概要のもので完成となりました。

※開校初年度ということもあり、今後改定されることも有り。



「学生生活ハンドブック 2016」の主な概要



▼「在学に当たって」

- ・当カレッジの基本理念や3つの方針を理解し、自発的に学ぶこと
- ・他の学生の意見や考えを尊重し、異なる価値観を認め肯定的に関わること

▼「生涯学習コーディネーター養成コース」について

- ・学生証は、本カレッジ生を証明するもの。
授業には必ず持参し、受付で提示すること



▼「授業」について

- ・日 時→教室 型 19:00～21:00
(教室型以外はその都度お知らせ)
- ・提出物
全 員→各授業終了後に「学びのフィードバック」
日 直→毎授業1名の当番制で「授業レポート」作成

▼「ちよカレルール」

- ・授業中のマナー(例:飲食禁止)
- ・緊急時(例:地震や台風など災害時の対応)
- ・配付資料等の著作権帰属先
- ・貴重品の自己管理



質疑応答・自由意見など

- 例えばうちの学校の場合、学生生活ハンドブックと呼ぶものが存在するが、当ハンドブックは何のハンドブックと言えば良いのか。
⇒学生生活のしおりのようなものと考えて頂ければよいと思う。(その後、このご意見を基に、名称を「学生生活ハンドブック」と改称)



- 私が仕事後にカレッジに通学するとしたら、インターネット上でも当ハンドブックの閲覧ができると、受講する側は常に振り返りができるので良いと思う。
⇒カレッジの学生専用ページには掲載する予定である。(現在、学生専用ホームページに当ハンドブックを掲載中)



- 「学びのフィードバック」や「授業レポート」といった提出物についても、各人が記載した後にカレッジの専用ホームページへ掲載し、欠席者も授業内容が分かるシステムにしたらどうか。
⇒WEB上にどこまで掲載するかは、今後の課題として検討する。
- (日直の仕事として)授業レポートを書かせる意図は何か。
⇒記録を書くというのも、学びの1つだと考えている。
- 応募状況を見ると、50歳以上の方が多く、カレッジの継続を考えると年齢の高い方の参加が多くなると推測する。このハンドブックも、今後は図式の記載等あれば幅広い年代の方が見やすいレイアウトになると思う。

「学びと地域のコーディネーター養成コース」の卒業後の展望(素案)

学生が卒業後に「学びと地域のコーディネーター」として、こういった活動・活躍の場があるのかを想定し、事務局より3つの素案を示して説明しました。

次回以降の会議にて、委員の方々にご意見を賜り、来年度に具体化を図ります。

A

「ちよだ生涯学習カレッジ」において、クラスチューターの存在として在校生のサポートを行う。

ちよカレの各種委員会やイベント(オープンカレッジなど)にファシリテーター的な役割として参加する。

利 点：カレッジ事務局内で決定できる点

課 題：登録人数が多い場合、活躍の機会が減る



B「人材バンクの拡充」

現存の生涯学習人材バンクを見直し、拡充する。生涯学習講師のみの登録・紹介制度ではなく、「学びと地域のコーディネーター」として講師が出来る方の登録・照会を可能にする。

※人材バンク制度とは・・・専門的知識や技能を持つ方を指導者として予め登録し、区内の団体・サークルなどの求めに応じ、紹介する制度。平成 27 年度末現在、文化芸術講師(家庭生活・教養・社会生活・芸術文化・音楽)235 名、スポーツ講師 70 名が登録。

利 点：既存の制度を活用できる点

課 題：名称も含めて制度自体の見直しが必要



C「デビューの場」

認定「学びと地域のコーディネーター」としてデビューできる場を関係機関に調整のうえ、設ける。

◆千代田区文化芸術の秋フェスティバル各実行委員会

例:芸能のつどい、コーラスフェスティバル、オーケストラフェスティバル、作品展示

◆区民のためのスポーツや文化イベント

例:囲碁・将棋大会、区民体育大会、福祉まつりなど

◆千代田区の各種検討部会

例:千代田区ミュージアム連絡会など

◆地域活性化推進法人

例:コマンド A、大丸有エリアマネジメント協会、淡路町エリアマネジメントなど

◆学校と地域の連携

例:学校支援ボランティア、スクールコーディネーター

利 点：コーディネーターとして千代田区内で活躍できる

課 題：各会との調整、既存のメンバーとの合意が必要





「東京オリンピック後に生まれました」
松井 千恵子



「皆 とつながる」

鈴木 やす代

「東京オリンピックの時に何歳だった？」社会に出たころ、年齢を探るために出た話題です。「生まれていません。教科書で習いました。」と答えました。

オリンピックは時間帯が合えばテレビ観戦する程度ですが、今年のリオデジャネイロ大会は印象深く残りました。男子柔道（90kg級）で出場したベイカー茉秋選手が地元の千代田区立昌平小学校出身だったからです。小学校のホールで行われたパブリックビューイングに行き、日本の裏側で戦うベイカー選手を応援しました。見事に金メダルを勝ち取り、会場は大いに沸きました。忙しい中ベイカー選手は、メダルを携えて昌平小学校を訪問してくれました。

リオオリンピック・パラリンピック大会の式典を見て「学びで人と地域をつなぎ、グローバルとローカル、社会と個人の交流の場をめざし…」ちよだ生涯学習カレッジの基本理念の一節を思い起こしました。カレッジが東京オリンピック・パラリンピックにおいて良い関わりが築けるようにと願います。

1964年東京オリンピックを知っている人たちは、楽しそうに思い出話をしてくれました。私も2020年東京オリンピック・パラリンピックが楽しい大会だったと語りたいものです。

編集後記

第11期第3回のエポックは、ちよだ生涯学習カレッジのハンドブック（素案）や卒業後の展望を中心にお送りいたしました。次回会議でも、各委員から貴重なご意見を頂戴したいと思います。また、ご多忙の中リレー随筆をお引き受け頂いた松井委員・鈴木委員に心から御礼申し上げます。

10月からいよいよ「ちよだ生涯学習カレッジ」が始まります。これから2年間通って学ぼうという一期生の方々の意欲や期待に十分に応えるものであってほしいと思います。

私は前期より千代田区障害者共助会として推進委員をさせていただいています。バリアフリーという言葉はよく聞きますが先日、電動車椅子の方と一緒する機会がありました。用事を済ませてお茶をすることになり、淡路町に面した3店のうち1店だけが段差が大きくなり入れました。当たり前ですが、お店に入ってからご本人がコーヒーを口にするまで少しお手伝いをしました。

電動車椅子はお年寄りや力のない人にも行動半径を広げてくれますが、その先の目的に達するには他の人の声かけや手助けが必要なことを一緒に行動してみて実感しました。

今年4月に「障害者差別解消法」が施行されたことで自治体職員や民間事業者が日々の活動の中で困っている障害者に、積極的に声を掛けたり、表示なども分りやすくするよう、あるいは相談されたら、たらい回しをしないよう話をよく聞く等配慮することが示されています。障害をもった人も外に出て自分がしたいことをするためにコミュニケーションを取りたいと思っています。これから「ちよだ生涯学習カレッジ」を受講することやカレッジを卒業した方々がボランティアとして障害者の方々と接することがあるかもしれません。はじまりは、解消法という法律があるからということでも、徐々に自然な声かけや手助けが社会に行き渡っていくよう願っています。





第11期 第4回会議 概要報告

平成28年11月25日(金)、第4回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。今回は、10月5日(水)に開催した「ちよだ生涯学習カレッジ」入学式および第3回までの授業内容の報告、そして前回の会議に引き続き、認定「学びと地域のコーディネーター」の展望(活動の可能性)について事務局から3つの案を提示し、委員の方からご意見・ご質問を頂いたうえで具体的な検討を行いました。以下、会議の概要を報告いたします。

「ちよだ生涯学習カレッジ」入学式開催と第3回目までの授業の報告

回	入学式	第1回授業	第2回授業	第3回授業
日付	10/5	10/19	11/2	11/16
出席	33	33	31	30
忌引	0	0	1	1
欠席	2	2	3	4



★授業風景(第1回授業)★

～事務局からの報告～

○入学式は参加必須では無かったものの、学生35名のうち33名が出席し、開催した。

○学生の皆さんはほぼ現役世代で、仕事後に授業に出席されている。

○授業はまだ序盤戦であるが、学生の皆さんはとても熱心に受講している。授業後に、「学びのフィードバック」という簡単な授業での感想や気づきなどを書いて頂いているが、そこには「要望、改善点」を始めとした具体的提案もあり、当

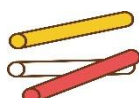
カレッジへ積極的に関わる姿勢が感じられる。

○第1回目の授業は、「私、私の生き方」をテーマにし、自分のライフキャリアを振り返りつつ、今後の地域社会との関わり方を考えるものであった。



○第2回目の授業は、「魅力的なコミュニティにはコーディネーター的存在がいる」ということについて、まちづくりや建築に関わる講師の観点からの講義であった。

○第3回目の授業では、グループワークで、自己紹介のほか、今後、施設見学や講座見学でどういったことに取り組みたいかなどを話し合った。



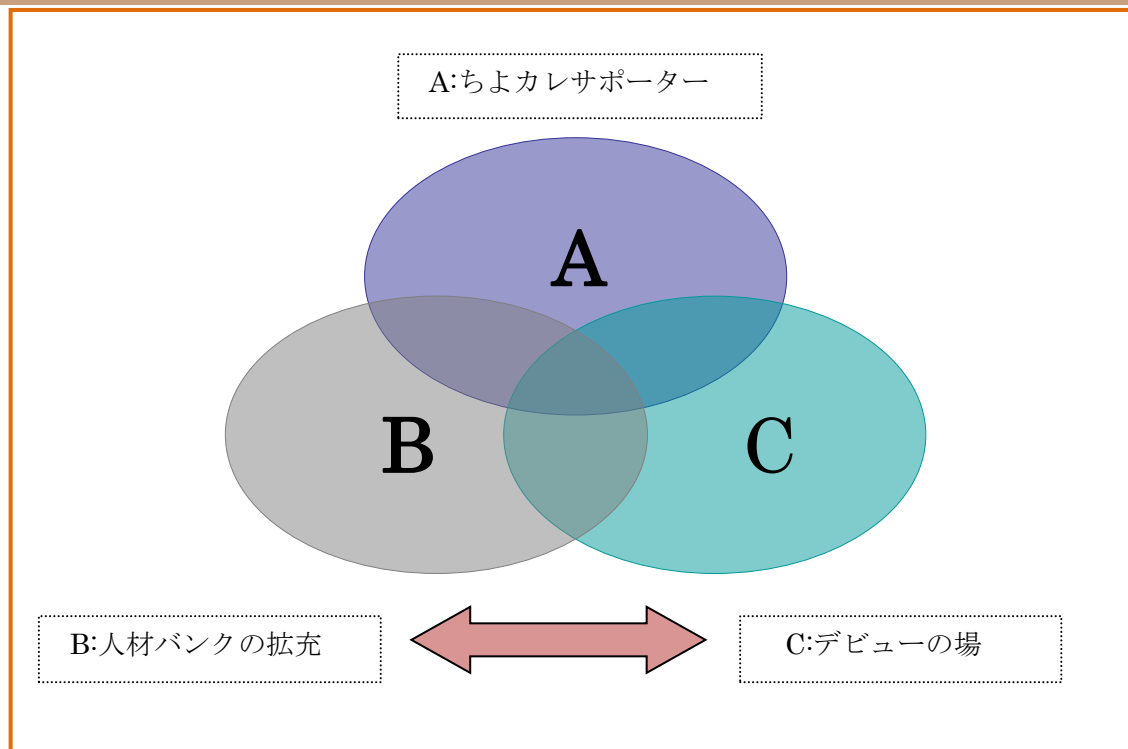
「学びと地域のコーディネーター」卒業後の展望(活動の可能性)について

第1期生の卒業後における、学習成果を地域で生かすためのしくみづくりの検討を進めるため、前回会議に引き続き、下記のとおり事務局より3つの(案)の提示を行いました。

今回は委員の方々より実際にご意見等を頂戴し、更に検討を進めました。

「ちよだ生涯学習カレッジ」がサポートする

認定「学びと地域のコーディネーター」の展望(活動の可能性)～事務局より3つの案～



～A ちよカレサポーターとは～

「ちよだ生涯学習カレッジ」において、クラスチューター的存在として在校生サポートを行う。カレッジの各種イベント(オープンカレッジなど)にファシリテーター的役割として参加する。



～B 人材バンクの拡充とは～

既存の人材バンクを見直し、拡充する。生涯学習講師のみの登録・紹介制度ではなく、「学びと地域のコーディネーター」としての登録や紹介ができるようにする。

～C デビューの場とは～

A, Bと比較して理解・調整に時間を要することが想定されるが、認定「学びと地域のコーディネーター」としてデビューし、地域などで活躍する場を関係機関と連携・協力のうえ、設けていく。



○海外からもインターネットで様々なことを調べて旅行に来る方が多く存在するようであるが、そういった方へ発信できるような情報センターのようなものを作り、外に向けて情報発信が出来る場所があると非常に喜ばれ、良いのではないかな。

⇒推進委員会議でも話題に出ているが、2コース目を「観光ボランティア」のようなコースにするという選択肢もある。区内でのそういった外国からのお客様も含めた観光の観点での情報発信、拠点作りのようなものも視野に入れている。



○私が住んでいるのはマンションなので、町会との関わりというのは薄いと思う。私が近くで見ている、「あちらの町会は凄く活動的で良いことをしているのだな」と思ったことがあり、古くからの住民が活動している町会と、マンション居住者を多く抱えている町会には地域への関わり方の差がある気がする。その間にコーディネーターが入って下さったら凄く良いと思う。

⇒長年住んでいらっしゃる方、新しいファミリー層も含めて住民の方が増えてくると新たなコミュニティを当然作り上げていく必要がある。また、マンション住民が既存の自治組織等にどう参画していくかというのは大きな課題である。



○(在住者のみならず)在勤、在学者の観点からも考えて頂けると有難い。私立の生徒のなかには、屋間はずっと区内に居るものの、千代田区のことをさほど知らない者も居る。よって、コーディネーターの方に学校に来てもらい、(千代田区のことについて)話しをして頂くなど、そういったチャンスがあれば有難い。



○高齢者や障がいのある方などが身近な場所で交流できる「ふれあいサロン」が区内に何カ所か存在したり、ボランティアグループの方が食事会を開いたりしている。コーディネーターがそういった場所を見学して情報を集め、学びや特技を活かしてボランティアしたい方とのつなぎをしていただけると良いと思う。



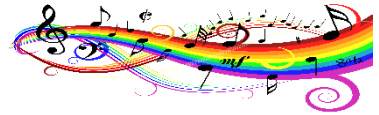
○区内機関が地域活動などを収録した冊子を私も読むが、もっと様々なところへアピールするとともに、区民等の学習希望に応じて、団体や人材を紹介できる旨の周知も冊子に入れて頂けたらと思う。

⇒「見える化」という言葉をよく耳にするように、カレッジの内容や学習成果をどのように生かせるのか、それをどう「見える化」して周知していくか、そこが一つの核心だと思う。カレッジがこれから発展していくうえで事務局も工夫を凝らしてご提案していきたい。



○町会の方が密接に参加し行事を行っている学校があり、それらの学校には人手が足りないところも存在する。そういった学校行事にうまく卒業生が入っていけると、地域の方とも知り合いになり、町会に少しずつ入り易くなると思う。





「生涯学習とボランティア」

武藤 祐子

いよいよ、「ちよだ生涯学習カレッジ」がスタートしました。生涯学習推進委員会議でこの名称に決まった時には、私自身もワクワクした気持ちになりました。生涯学習を身近に感じてもらい、より多くの方々に千代田区のことを学んでほしいとの思いが詰まった名称です。

どんな方が受講されるのだろうか？と入学式を見学。そこには長年ボランティア活動をしている方、今年度からボランティアグループでの活動をスタートしたばかりの区民の方など、日頃からボランティア活動に熱心に取り組む方々も受講されていました。

また、そこに参加されていた受講生が、後日ボランティアセンター主催のコミュニティとのつながり方を話し合うトークイベントにも参加され、あらためて生涯学習とボランティアの重なりや関わりの深さを実感しました。

学びたい人には生涯学習の場があり、学んだことをボランティアとして実践したい方はボランティアセンターに相談できる。その時の状況でどちらかを選んだり、どちらも実行する。生涯学習とボランティア活動を自由に行き来でき、多くの方が地域で活躍できるサポートが充実するよう協力し合いたいと思います。



編集後記(事務局より)

今回のエポックは、第4回会議についてお届けいたしました。お忙しい中、リレー随筆をお引き受けくださいました武藤委員と安田委員に心からお礼申し上げます。次号エポックもよろしくお願いいたします。

「積み重ねるということ」

安田 郁子

『ちよだの杜少年少女合唱団』は千代田区文化芸術協会の会員がつくった千代田区に集う子ども達のための合唱団です。12年ほど前に創団し130名を超える子ども達がこの合唱団を経験しています。多くの合唱団が年齢でクラスを分けていますが、ちよだの杜は全年齢の子ども達が同じ練習をしています。

ちよだの杜、は徹底的に子ども主義です。これは、子どものためなら、かなり面倒くさいことでもやっつけてしまおうということです。例えば、楽譜。小さい子には、イラスト付きひらがなの歌詞カードを。合唱譜を読み慣れていない団員には、パート譜を用意。市販の楽譜には、そんなサービスはないので、全部手づくりです。そして、練習は、厳しいが面白い。「楽しくなくちゃ合唱じゃない！」がモットーです。練習曲は、団員に合わせ選曲をします。おかげで、レパートリーは、唱歌・童謡からアニメ、Pops系、現代合唱曲、英語の他、独伊仏語にラテン語まで幅広く、同じ曲でも、団員構成が変わるとアレンジを変えます。

こんな中で、小学校を卒業し、上の学校に進学した子たちは、自分の学校の合唱コンクールの時、クラスで「合唱とは！」と説くそうです。そして「優勝したよ！」と報告が。長く在籍している団員は、歌うことに関して自信にあふれています。一つのことを長く楽しくやり続け、積み重ねた結果に、このような素晴らしい子ども達が生まれたことを、私達ちよだの杜のスタッフは誇りに思っています。

～編集・発行～

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL：03-5211-3632
FAX：03-3264-1466
Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

epoch

エポック No100

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～
平成29(2017)年5月 発行

第11期第5回 概要報告



平成29年2月7日(火)、第5回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は昨年行われた第2回会議に引き続き、「ちよだ生涯学習カレッジ」2コース目の学科について検討を進めました。更に、本年1月に開催された「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」の実施報告を行うと共に、第11期後半のテーマについて各委員から自由意見を頂くなど、多岐に渡る検討内容となっております。以下、議事概要をお伝えいたします。



「ちよだ生涯学習カレッジ」2コース目の学科について

昨年7月に実施された第2回の会議では、平成30年10月に開設予定の2コース目の学科の具体化に向け、10期からの検討経緯の情報共有や、学科(素案)の提示を行いました。そこで得た委員からのご意見を勘案して、今回の会議ではコースの考え方及び名称についてなど、下記のとおり新たな(案)をお示しして検討いただきました。

◆2コース目の提案

2コース目は千代田区について詳しい人
＝「●●マイスター」を養成するコースとしたい。
千代田というまちについての知識や教養を高め、まちの特性や構成要素に詳しく、将来的には区民研究科にもなりうる人材を想定。
⇒観光分野へのニーズにも応じ、卒業後にはボランティアガイドや千代田区の都市としての魅力を内外に発信する可能性も持っている。

◆コース名称(案)

千代田学マイスター(養成)コース
千代田クリエイティブマイスター(養成)コース
千代田まちのマイスター(養成)コース
千代田魅力発信マイスター(養成)コース
千代田水先案内(養成)コース

※「●●マイスター」は千代田の地理、歴史、文化などについて学び、まち歩きやワークショップ、インタビューなどを通じて、千代田という土地やまちに精通した人を想定している。

◆マイスターという言葉について

マイスター制度はドイツ発祥の職能訓練制度のことで、マイスターは「巨匠」や「親方」という意味で使われる一方、ある分野について学習し、精通した人への資格として使われることも多い。

⇒ある特定の分野についての学習過程を終了し、それに精通した人

例：ベジタブル&フルーツマイスター、ものづくりマイスター、温泉マイスターなど。

⇒自治体が認定しているもの

例：荒川マイスター

区内において長く同一の職業に従事し、培った高い技術と卓越した技術をもって後進の指導・育成に力を注いでいる方を、「モノづくりの街・荒川」を象徴する存在とするとして、「荒川マイスター」に認定している。



☆カリキュラムの考え方☆

基礎：歴史、地理、文化、まち並み、都市デザインなど千代田という「まち」について知る。

専門：生涯学習、ボランティア、プロボノについて理解する。

習熟：まち歩き、ワークショップ、インタビューなどを通して基礎・専門の理解度を深め、発展させる。

講師：都市デザイン、近現代史、地理などの専門家

☆カリキュラム案/6 単元☆

基礎Ⅰ：千代田学・コミュニティ学

基礎Ⅱ：生涯学習全般(生涯学習・ボランティア・プロボノ)

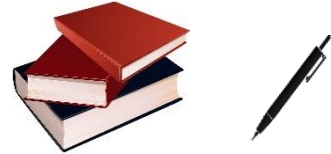
専門Ⅰ：街を知る、知ってもらう体験

専門Ⅱ：千代田区の地理、歴史、文化

習熟Ⅰ：グループワーク

習熟Ⅱ：ゼミナール

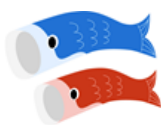
※基礎ⅠⅡは1コース目「学びと地域のコーディネーター(養成)コース」と同じ



質疑応答・自由意見

・「ちよだ生涯学習カレッジ」の学生が卒業し、学びの成果が地域もしくは外に還元されることが重要で、研究にこもりすぎたり、深めるだけのようなコースだと意味が無いと思う。

・間口が広く、地理・歴史・観光など、どれを選べる余地がある名称にすべきであり、コース名称は「千代田まちのマイスター(養成)コース」や「千代田魅力発信マイスター(養成)コース」が一番分かり易くて良いと思う。



・「千代田まちのマイスター(養成)コース」の「まち」をカタカナにしても良いではないか。

⇒区では様々な可能性を秘めた広い意味で、まちづくりの「まち」は敢えて平仮名で表記している。

・「千代田まちのマイスター(養成)コース」の「まち」はやはり平仮名の方が、文化的な要素が入っているイメージで良いと思う。



・カレッジが開校し授業を随分重ねていくうえで、学生達が望むところが徐々に見えてきていると思う。2コース目を検討するにあたり、学生たちが何に重きを置いているかを知る事がまずは大事だと思う。



・基礎Ⅰの千代田学・コミュニティ論というのはどのような内容か？

⇒千代田地域論のようなカリキュラムになっており、外神田や大丸有を取り上げる予定である。

・「ちよだ生涯学習カレッジ」は、学生たちにどのような道筋を付けようとしているのか。観光ガイドを養成したいのか、又は千代田区の様々なことを吸収して貰い、あとは学生自身に考えて頂く方向にするのか。

⇒後者に近い。観光に特化したマイスターを育成することではなく、あくまで選択肢のひとつとして観光ボランティアガイドが存在している。

●以上、頂いたご意見等を基に
第6回以降の会議にてコース名称
を確定し、カリキュラムの具体化
も図っていきます！

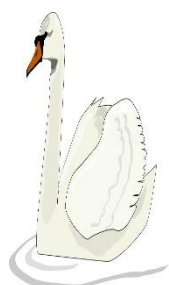
「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」実施報告

区は、千代田区内の文化・学習・コミュニティ施設、生涯学習機関等による情報の共有化や生涯学習ネットワークの構築をめざし、平成 29 年度に「千代田区生涯学習連絡会」の設置を予定しています。

その前段として、平成 29 年 1 月 19 日(木)に九段生涯学習館にて「千代田区生涯学習連絡会の設置に向けた準備会」を開催いたしました。

今回、委員の方々へ当準備会の実施報告を行いました。

◎参加機関 下記、文化・学習・コミュニティ施設および機関の実務担当者



アーツ千代田 3331	千代田区立 スポーツセンター
千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター	地域振興部 コミュニティ総務課
千代田区社会福祉協議会 高齢者活動センター	地域振興部 麴町出張所
公益財団法人 まちみらい千代田	地域振興部 富士見出張所
一般財団法人 千代田区観光協会	地域振興部 神保町出張所
千代田区立 千代田図書館	地域振興部 神田公園出張所
千代田区立 日比谷図書文化館	地域振興部 万世橋出張所
千代田区立 九段生涯学習館	地域振興部 和泉橋出張所

◎当日の主な議題

◆「千代田区生涯学習連絡会」の設置について

設 置 者：千代田区

事 務 局：地域振興部 生涯学習・スポーツ課

設置の目的：平成 29 年度に、区内の文化・学習・コミュニティ施設、生涯学習機関等による情報の共有化を図り生涯学習ネットワークの構築を目指す「千代田区生涯学習連絡会」を設置する。また、「ちよだ生涯学習カレッジ」の運営や、卒業生が地域で活動する際の協力や支援を、参加施設及び機関に要請する。



◆情報交換

下記のような情報提供・意見交換があった。

九段生涯学習館

当館は、本日お集まりの皆様にもご理解を頂いたうえ運営が成り立っている。今後「千代田区生涯学習連絡会」に参加し、皆様からのお話を頂戴する機会を積極的に増やし勉強を重ねたい。

コミュニティ総務課

マンション居住者と地域の方を繋げる交流の場「マンションカフェ」という事業の中で、将来的にカレッジ卒業生にファシリテーターとして活躍して頂くなど、今後連携が取れると考える。



ちよだボランティアセンター

「ちよだ生涯学習カレッジ」の学生には、当センターが企画したトークセッションに参加されていた方もおり、学生は学びと活動に熱心だという印象を持った。

高齢者活動センター

60 歳以上の千代田区民を対象にした「かがやき大学」の運営を行っており、「千代田区生涯学習連絡会」から得る情報等を、来年度以降に反映できるところは反映させていきたい。

第11期千代田区生涯学習推進委員会議 ～後半のテーマについて～

今回の会議で第11期も前半が終了し、後半のテーマ決定に向けて検討を行いました。委員の皆様より頂いたご意見を紹介します。次回会議では会長からテーマ(案)をお示しする予定です。

自由意見

- ・千代田区の魅力を知って、そこから「地域づくり」に活かせるようなテーマにしたい。
- ・テーマの中に「繋ぐ」という言葉を入れたら良いと思う。
- ・着物をイメージし、紡いだものを織って広げて形にするという、「広げる」という言葉がぴったりくると思う。
- ・「繋がり」という言葉をテーマに含めて、そこから更に発信し、千代田区の魅力を更に皆さんに知って頂くことが出来れば良いと思う。
- ・10月に開校した「ちよだ生涯学習カレッジ」がただひたすら道を進むのではなく、千代田区の人を含め、様々な資源、財産と絡んでいくようなことが出来るテーマだと良いと思う。
- ・自身が教鞭をとっている生徒に千代田区の皆さんがよく声を掛けてくださり、子供が育っていく。都会もとても優しさがあるのだということを、この会議から発信できるようなテーマだと良いと思う。

◆◆編集後記◆◆

おかげさまで、エポックは今号で第100号を迎えることが出来ました。第11期の後半も盛りだくさんの検討内容となるため、これからも引き続き、エポックにて会議概要をご確認頂ければ幸いです。

また、今回リレー随筆にご協力いただきました藤井委員にも心から御礼申し上げます。

リレー随筆 NO.7



縁は異なるものの味なもの

唐突ですが、とまとの会が今年3月末で閉会します。平成15年から65歳以上を対象に、干支の飾り物や季節的な手芸をある程度こちらで作成したものを、参加した方が完成させてお持ち帰り頂き(参加費100円)、お茶とお菓子に、篠笛の演奏で懐かしい唱歌等一時間程楽しんで頂いておりました。他に7月には、フラダンス、1月には三味線と小唄に抹茶と正月らしさを出したり、会にご理解のある方が材料等提供して下さったり、アイデアを頂いたりと周りの方々のご協力もありつつ、参加者の笑顔に達成感を味わっていたように思います。しかし、いろいろな変化について行けず、このような結果となりました。

私が携わった約7年は半分にすぎませんが、とまとの会の皆さんとお知り合いになれたことが、私の一つの宝物になりました。このご縁を大切にしていきたいと思っております。

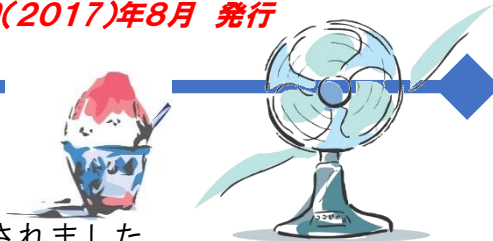
社会福祉協議会の方々にも大変お世話になり、御礼申し上げます。

ちよカレの生徒の皆様も色々な世代の方々とお知り合いになれたこのご縁を大切に、切磋琢磨し、ご活躍されますことを期待し私のエールと致します。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL：03-5211-3632
FAX：03-3264-1466
Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

第11期第6回 概要報告



平成29年5月19日、第6回生涯学習推進委員会議が開催されました。

今年度から新たに生涯学習推進委員となった、ちよだボランティアセンター長の清水昌代委員を加えて、第11期後半の検討に臨みます。今回は新年度初回の会議ということで、昨年度から継続議論している「ちよだ生涯学習カレッジ」について現状報告を行い、全員で共通認識を持ちました。

その後、今期後半に議論していくテーマについて検討を行いました。卒業後の活動についてイメージも膨らませながら、テーマについてのキーワードを出し合い、決定しました。

以下、概要をお送りいたします。

「ちよだ生涯学習カレッジ」2コース目について

コース名「千代田まちマイスターコース」に決定



第5回会議で話し合った「ちよだ生涯学習カレッジ」2コース目について確認しました。

○漢字で「千代田」、ひらがなで「まち」、そしてマイスターとする。

○2016年10月に「ちよだ生涯学習カレッジ」が開校し、現在は「学びと地域のコーディネーター養成コース」で学んでいる。将来的には複数のコースを開設する予定で、開校2年後である2018年に2コース目ができるように検討しているところである。

○名称には「観光」というキーワードが入っていないが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることも見据えて「おもてなし」についても学び、将来的には観光の分野でも活躍できる人材を養成するようなコースを想定する。

○観光分野においては語学が必要にはなるが、個々の素養にもかなり寄るところなので、カリキュラムには入れないこととする。



「ちよだ生涯学習カレッジ」第1期生の現状報告

○直近の5月10日までの計13回の授業における出欠状況を提示した。総数35名で在籍数に変わりはない。

○欠席の中に、長期欠席者が含まれている。休学制度を設けていないため、すべて欠席者としてカウントしている。

○3月4月は年度の変わり目であったため、仕事や体調不良で欠席の連絡が多かった。欠席者からは毎回事務局に欠席連絡が入っており、無断欠席者はいない。

○遅刻・早退30分以上が2回で1回の欠席としてカウントしている。

回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回
日付	10/19	11/2	11/16	12/7	1/11	1/25	2/8	2/22	3/8	3/22	4/12	4/26	5/10
出席	33	31	30	29	26	26	28	28	27	25	23	21	27
遅刻・早退	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1
忌引等	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
欠席	2	3	4	6	8	9	7	7	7	10	11	14	7
合計	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35

学びと地域のコーディネーター養成コース第1期生 出欠状況内訳（人数）

質疑応答・意見等

○長期欠席の理由とは

⇒仕事で異動になった等、仕事が理由の人が
多いが、体調不良の方もいる。

平成29年10月から第1期生が2年生になる。
それぞれへ今後の在学や進級の意向を
確認し、ご本人の意思を尊重して対応する
予定である。

○学生の積極性について

⇒事務局が当初想定していたより現役世代の
方が多く、仕事で忙しくても2時間の授業
を積極的に受けている。ときには話し合い
の時間が足りずに21時過ぎまで残ってい
ることもある。話し合いの時間を確保する
ため、第2期生からは少し時間割を変える
予定である。



○長期休暇について

第1期募集の段階ではどのような年齢層の
の方々が集まるかわからなかったが、退職後
の社会参加として受講されている方や現役
世代で年度末・年度初めに忙しい方がいる
ということがわかった。今後、状況に応じ
て長期休暇の設定やその時期について考え
ていく必要があると感じた。

○不合格者と長期欠席について

第1期は希望者が全員入学できているので
問題がないが、今後申し込み者が増えて選
考を行った場合、長期欠席者がいるとその
分ほかの人が入れたのでは、という意見が
出てくる可能性がある。今後考えていく必
要があると思う。

「ちよだ生涯学習カレッジ」第2期生の募集について

募集内容

- ・ 募集期間 7月5日（水）～8月17日（木）（必着）
- ・ 申し込み資格①20歳以上②区内在住・在勤・在学者
③2年間継続して学ぶことができ、学習成果を地域活動やボランティア
活動などを通じて実践する意欲のある方
- ・ 定 員 30名
- ・ 授 業 料 年間1万円（2年間で2万円）
- ・ 申し込み方法 入学願書に作文を添えて事務局まで提出
- ・ 選考方法及び入学者の決定 入学願書を選考し、郵送にて決定通知。
- ・ 従業回数 全36回



第1期生との変更点

- ・授業日を第1・第3(及び第5)火曜日とする
- ・一部カリキュラムと講師の変更
専門Ⅰで「大人の学びあい」や「話し合い」を体験的に学ぶため、グループワークを増やす
- ・あらかじめ自主活動日を設定する



質疑応答・意見等

○授業は入れ子式で展開されている。学生がスケジュールを把握しやすいように、授業カリキュラムに曜日を入れるとよい。

○授業カリキュラムは、入学直後に受け取る資料。「基礎・専門の枠ごとに記載している。日付順に並んでいないので注意」などの一文があったほうがわかりやすい。

○昨年の広報千代田8月5日号の一面に掲載されたとき、同じ面におおきく「かがやき大学」が紹介されていた。同じ大学という分類で同じ面に掲載されたのかもしれないが、区別がつきにくくわかりにくかった。

生涯学習推進委員会議の今期後半のテーマについて



『「ちよだ生涯学習カレッジ」卒業生が地域で学習成果を生かしていくための仕組みづくり』を表すテーマについて話し合いました。

自由意見

○「紡ぐ」

対象者と直接向き合うことも大切なことであるが、自分より詳しい人を紹介できるような「自分で紡げる」人というのが、卒業生にやっていただきたいことである。

○「結ぶ」

人と人、人と地域というようにいろいろなものを含めて結ぶ。ネットワークや広がりをつくるようなイメージ。



学生の様子から（事務局）

○ボランティアセンターの見学から

自分たちもボランティア団体を立ち上げて活動してみたい、助成金をうまく活用してみたい、という意見があった。

○助成を受けて活動することについて

公的機関から助成を受けると、書類をそろえるのも経理も大変になるかもしれない。それでも、千代田の関係機関と連携して何かやりたい、助成金が受けられる程度に地域から認知されるような活動をしたい、という意欲を感じる。

次回から内容を検討していきます

第11期のテーマ：

「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」に決定

リレー随筆 No.8&No.9

「生涯学習推進委員会」って

木村 由香

「楽しさを写すレンズ」

吉田 和仁

昨年より千代田区青少年委員に推薦していただき、その御縁もあり第11期の生涯学習推進委員として会議に出席させていただくことになりました。ですが、「生涯学習推進委員？会議？」ってどの様な意見を言って、どの様な意見を求められるのか？そんな事を思いながら第1回の会議を向かえました。

第1回会議内容は「ちよだ生涯学習カレッジ」の開校に向けての課題等でした。

「ちよだ生涯学習カレッジ」（学びと地域をつなぎ、学びを地域に還元する）はもう4年前より開校へ向け、名称・コース内容（モニターコースも終了）を委員会会議で議論されたとの話を伺いました。第2回会議では「ちよだ生涯学習カレッジ」2コース目の学科についての話し合いが始まり自分自身が学ぶ側にたち、どのような名称？・コース？がよいのかと委員の皆様と議論していく中で私自身『学ぶ』ことがとても多いと感じました。

カレッジを受講している皆様も楽しく学び、学んだ知識を地域に還元して欲しいと思います。カレッジを卒業された方々の活躍の場も関連機関と連携し生涯学習推進委員として会議で議論しサポートしていければと思っております。

私にとって「生涯学習推進委員会」は自分も『学ぶ』楽しさを見つけれられた会議でした。これからも、生涯学習推進委員として委員の皆様とカレッジを受講している方々が楽しく学べるよう、議論を重ねていきたいと思います。

編集後記（事務局より）

第11期第6回のエポックをお送りいたしました。今期後半のテーマが決まりましたので、今後後半の検討も最盛期を迎えることとなるでしょう。

ご多忙の中、リレー随筆をお引き受けいただいた木村委員、吉田委員に、心から御礼申し上げます。次号エポックも、よろしくお願いいたします。

先日、北の丸公園を散歩していたら、ジャイアンツの野球キャップを後ろ向きにかぶり、首から掛けた一眼レフで、枝垂桜の樹を写そうとカメラを構えている女性に出くわした。

私に気づくと、挨拶してくれた。よく見ると、何年か前の卒業生、今は立派なお母さん、子どもは小学3年生。なんでも、写真がご趣味とか。あちこち草木の写真をとっていますと。私が「それだったら向こうのマンションの横を、ずーっと入ったお宅の前のヤマブキの花が今、見事ですよ」と教えてさしあげた。後日、お会いしたら、さっそく息子を連れて撮りに行きました、と。

私は以前、学校で写真部の顧問をしていたので、それから、時々その親子に会うと、写真談義、カメラ談義に花を咲かせることも。やがて、そのお母さんはパートの収入の一部を貯めて、望遠レンズを買い、千代田区内の草木や生き物の写真、さらには天体写真へと、被写体を広げていった。

休日には息子さんを連れて、秩父の山々や東京湾の野鳥公園に、鳥の写真や草木を撮りに行っている。子どもには自分が使わなくなったカメラを貸し与えて。「息子がカメラに夢中になっています。」と、あるとき、嬉しそうに教えてくれた。実は、お子さんには軽度の発達障害がある。しかし、それを感じさせない。生き生きとしていて、お母さんといっしょに、あちこちへ写真を撮りに行くのが本当に楽しそうだ。

親が、何かに熱中している姿を、子どもに見せることくらい最高の教育はない。

【編集／発行】

地域振興部 生涯学習・スポーツ課

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL：03-5211-3632

FAX：03-3264-1466

Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

第11期第7回 会議要旨

平成29年8月2日(水)、第7回生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は、まず7月20日(木)と8月1日(火)に実施した「ちよだ生涯学習カレッジ」入学説明会の実施及び第2期生の募集状況の報告をしたのち、今期のテーマ「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」の実現に向けて、「千代田区生涯学習連絡会」の設置についての検討、そして「ちよだ生涯学習カレッジ」の「学びと地域のコーディネーター」卒業後の展望について議論が交わされました。

「ちよだ生涯学習カレッジ」第2期生の募集状況について

報告事項

- 現在まで応募はないが、引き続き募集中。
- 入学説明会は7月20日(木)の1回目に2名、8月1日(火)の2回目は大雨にもかかわらず6名が参加した。昨年よりも出席者は少ない。
- 事務局の印象としては、説明会参加者の年齢層が若いと感じた。一番若い方は大学院生。
- 説明会参加者へのアンケートでは、実際に申し込みたいという方は8割程度。
- 昨年も締切前日までは応募数20名程度だったが、最終日に10名以上の応募があった。今年に応募者数は予想できないが、引き続き周知していく。
- 昨年はモニターコースを実施していたため、募集開始後すぐの応募者が5名程度いた。
- 今年は募集案内配布施設への対応を充実させるため、図書館及び九段生涯学習館の講座資料の中に募集チラシを封入したほか、募集ポスターを館内のより目立つ場所へ設置した。

自由意見

- 潜在的ニーズについては昨年対応して満たしているため、今年は応募数が少ないことはある程度予想された。
- 最近の学生は体験してから決める傾向があるので、チラシ配布だけでは動機付けには弱い可能性がある。1回でも体験の場があるとよい。
- 画像や映像では実際の臨場感がないので、模擬授業があるとよい。大学のオープンキャンパスや説明会の時にはそのようにしている。
- 応募を迷っている人は、授業の雰囲気を知りたいのではないかと思う。授業の見学をいつでもできるようにするとよい。
- 授業の見学は募集期間に関わらずできるため、年間を通じていつでもアピールできる状況にしておくとうい。
- 応募資格の区内在住・在勤・在学について、今後廃止を考えてもよいかもしれない。差別化は授業料によって図ることもできる。



「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」



① 千代田区生涯学習連絡会設置要綱(案)について

- ・ 目的 連絡会を通じて生涯学習施設及び関係機関等（以下「学習施設等」）の相互連携の体制を構築することにより、千代田区内に集積する生涯学習の資源等の有効活用を図り、もって千代田区における生涯学習の振興に資することを目的とする。
- ・ 所掌事項 (1) 学習施設等における生涯学習の資源等の情報交換に関すること。
(2) 連絡会の構成団体が協力して実施する事業に関すること。
(3) そのほか、連絡会が必要と認める事項に関すること。
- ・ 構成団体 アーツ千代田 3331、ちよだボランティアセンター、高齢者活動センター、まちみらい千代田、千代田区観光協会、千代田図書館、日比谷図書文化館、九段生涯学習館、スポーツセンター、指導課、児童・家庭支援センター、コミュニティ総務課、麴町出張所、富士見出張所、神保町出張所、神田公園出張所、万世橋出張所、和泉橋出張所、生涯学習・スポーツ課
- ・ 開催等 (1) 年1回以上開催する。
(2) 地域振興部生涯学習・スポーツ課長が招集する。
(3) 必要に応じ、構成団体以外の団体の者を出席させることができる。
- ・ 事務局 地域振興部生涯学習・スポーツ課管理係に置く。
- ・ その他 このほか、連絡会の運営に関し必要な事項は、その構成団体の協議により定める。

○第1回を9月15日（金）に開催予定。

○副館長、事業担当係長等の実務担当者の出席を依頼。

○開催前に、ちよカレ卒業生の活躍できる場や連携・協力を図りたい事業等について、アンケート調査を行い情報収集する予定。

質疑応答・意見等

○開催数「年1回以上」では、開催に消極的に見える

⇒別の会議で「年2回」と決めて、形骸化してしまっているものがある。状況に応じて柔軟に対応できるようにこのような表記にした。

○たくさんの機関が集まるので、部署や行事紹介で終わらないようにしてもらいたい。
交換した情報を活用していくために、事前準備をしっかりとる必要がある。

○時季限定のイベントがあるので、年間を通じて各機関の情報を把握する必要がある。

○学社連携の視点から、直接の学校関係者が入っていたほうがよい。

⇒構成団体は、連絡会の発展とともに拡充する方向で検討していく。

○「千代田区『定期』連絡会」と「定期」を入れてみたらどうか。

⇒「千代田区生涯学習連絡会」でスタートする。

② 認定「学びと地域のコーディネーター」の展望について

A：ちよカレサポーター

カレッジサポーターとしてちよカレ運営に関わることができる。

B：人材バンクの拡充

現在の講師登録に加え、ボランティア・プロボノを新たにカテゴリーに追加し、「学びと地域のコーディネーター」として登録可能にする。

また、人材バンク登録後の活動発展のため、現行の人材バンク活用講座に加え、区民自主企画運営講座に応募可能にする。

(右「B」図参照)

C：デビューの場

「千代田区生涯学習連絡会」などから情報を収集し、公募の会議体やボランティア、活動助成制度などについて情報提供と相談を実施する。

質疑応答・意見等

○区民自主企画運営講座には講師謝礼として1回2万円助成している。交通費や講師へのお茶代もかかるので、講師謝礼に限らず一括2万円にしたほうが使い勝手がよいのではないか。

○実際にボランティアセンターで活躍していた第1期生もいたことから、ボランティアセンターでは「C デビューの場」において連携できそうだと感じる。

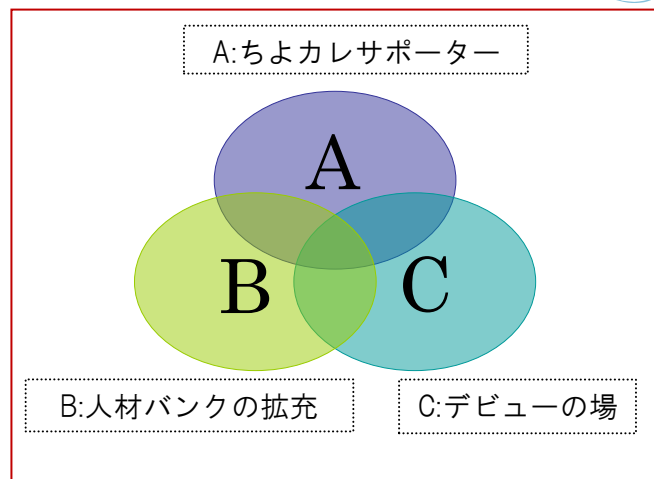
○若い学生は、お金になるか仕事になるようなことにつながればよいと思っているのかなと思う。

⇒大学生等は就職活動の評価のための可能性もある。

○町会活動の固定化や町会員不足のため、ぜひ町会に参画してもらいたい。

⇒千代田の古い町会の一部には、新しい方を受け入れない雰囲気もある。

⇒町会活動へ参画する場合には、良好な関係構築が重要なため、何度も諦めずに活動や行事へ参加してもらいたい。



B：現在の制度

人材バンク
登録

知識能力を活かし
講師登録をする

人材バンクによる活動

講師登録者がサークルへ紹介される

人材バンク活用講座

講師自らが講座を企画する

区民自主企画運営講座

5名以上の団体が講座を企画運営する

○卒業後の活動等イメージが見えれば、ちよカレ入学希望者も増えるのではないかな。

○小学校のボランティア依頼は学校ごとに行っており、人材集めに苦労しているので連携できれば助かる。

○学校内で区のチラシを貼っても配っても、なかなか学生に伝わらない。誰かファシリテーターとして説明してほしいと思うことがある。

○地元のお祭りで学生ボランティアを募っていた。そこにも参画できるのではないかな。

○千代田区生涯学習連絡会において、縦割りの役所の情報を紡ぐ役割が必要である。これを卒業生にやってもらえるとよい。

○最近の若い人はボランティア意識が高い。この人たちへアプローチする仕組みを作ることができれば、ちよカレ入学希望者も若年層が増えると思う。

リレー随筆 No.10&No.11

「学ぶ動機を見出す」

浅川 宏

7月末に2016年の日本人の平均寿命が男性80.98歳、女性87.14歳で過去最高を記録したとの報道がありました。高齢者現役社会が現実味を帯びてくる今日、医療や年金分野でも様々な制度改革が進んでいます。それに伴い、改めて生涯に渡り学び続ける大切さを感じます。このような状況にあって「加齢に伴って知能や記憶力が低下することは誤解であり、意欲の低下が問題である。」という精神科医の和田秀樹氏の記事を目にしました。意欲の保持には、前頭葉やホルモンが大きくかわることはよく知られていますが、同時に体の機能を保つためには、衰えを感じた部位を意識して使うことが大切であると言われます。それだけに意欲をもって取り組むには、動機づけが何よりも大きな力になります。

就学前から始まる学校教育の期間は、長い人生の四分の一にも満たない存在ですが、生涯に渡って学び続ける意欲や動機づけの基盤となる存在です。そこで様々な動機の基に学び続ける大人の姿は、いつまでも学び続ける人間でありたいという子供たちの生きる力への希望を与えるよきモデルという動機づけになると考えます。その意味で、どの世代にあっても自分自身に合った学ぶ動機を見出すことが大切であり、学びのスタートであると考えます。



「出会い」

丸山 輝

好きな言葉は何?と聞かれたら、私は“出会い”と答えるでしょう。これまで人との出会い物事との出会いが様々な喜びや発見をもたらしてくれたからです。

私の“生涯学習”との出会いは区報で人材バンク活用講座の企画案募集の記事を見た事に始まります。当時、高校の教師であった私が仕事を退いて、さてこれからどのように歩んで行こうかと思っていた矢先の事であり、経験を生かす事の出来そうなこの記事に飛びつきました。幸いに企画案が通り古典文学の講座を持つ事ができ、それを機に継続を望む受講者数人とともに九段生涯学習館のバックアップのもと区民自主企画運営講座を立ち上げ今日にいたっています。

わたくしの役割は講師というより道先案内人であり、動機付け人と言った方が適しているかもしれません。昔習った事、読んだことなどを思い出して、さらに発展させていっていただけるようお手伝いをしていると思っています。色々な人生経験のもとに、先人の残した作品を共に読んで行くことはそこに新たな発見や気づきがあり、様々なものとの出会いが生まれます。その出会いに喜びを感じ各自各様に生活の中に活かしていただけることが私自身のよろこびでもあり、学びでもあります。

物質的な豊かさに蝕ばれつつある今日、様々な物事に学びの目を向け、その中での出会いを大切にし、各自の中で育み、心豊かに過ごしていくことが生涯学習の意義とよろこびなのではないでしょうか。

編集後記（事務局より）

第11期第7回のエポックをお送りいたしました。ちよだ生涯学習カレッジについての議論も終盤に入ってまいりました。

ご多忙の中、リレー随筆をお引き受けいただいた浅川委員、丸山委員、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしくお願いいたします。

【編集／発行】

地域振興部 生涯学習・スポーツ課

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL：03-5211-3632

FAX：03-3264-1466

Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

第 11 期第 8 回 会議要旨

平成 29 年 10 月 20 日（金）、第 8 回生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は、「ちよだ生涯学習カレッジ」の 2 年次に進級した第 1 期生と新たに入学した第 2 期生の在籍状況などを報告をしたのち、「千代田区生涯学習連絡会」の実施報告、そして今期のテーマ「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」の実現に向けて自由に意見が交わされました。



「ちよだ生涯学習カレッジ」の報告

進級及び入学等の報告について

- 第 1 期生は、昨年の入学時の人数は 35 名。
そのうち 26 名が 2 年次へ進級した。進級しなかった理由は、家庭の都合や転勤などの仕事の都合が 7 名。授業のレベルが合わないという人は 1 名。
また 1 名は 1 年次の出席授業数が少なかったことを理由に、第 2 期生と一緒に、再度 1 年次の授業を受けることを希望した。
- 第 2 期生は、2 次募集も行い、計 19 名が入学。今回も 1 名モニターコース経験者からの応募があった。
入学は 19 名だが、第 1 期生から編入する 1 名が加わるので、授業に出席する人数は 20 名となる。
- 第 1 期生・第 2 期生ともに授業が始まった。
欠席者はいるものの、いずれも事務局に事前連絡が入っている。

第 1 期生(2016 年入学)	35 人
第 1 期生(2017 年進級)	26 人
第 2 期生(2017 年入学)	19 人
(第 1 期生から編入)	1 人

第 2 期生の募集について

- 第 2 期生の募集について、当初の募集期間までの申し込み数が少なかったため、2 次募集を実施した。計 19 名の申し込みがあり、選考の結果、全員の入学が決定した。
- 募集に対して申し込みが定員割れしたことを踏まえ、来年へ向けて広報 PR 活動を充実していく一環として、この度「ちよだ生涯学習カレッジ」のフェイスブックを開設した。また、入学募集時期については今年より早める。そして、オープンカレッジや授業の参観など、ちよカレに興味を持っていただけける取り組みを進め、学生の確保を図っていく。



「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」

② 千代田区生涯学習連絡会の実施報告



- ・実施日 平成 29 年 9 月 15 日（金）
- ・議題
 - (1) 千代田区生涯学習連絡会の目的について
 - (2) 出席者自己紹介
 - (3) 千代田区生涯学習連絡会に関するアンケート結果について
 - (4) 情報交換
- ・アンケート結果（全 19 機関）
 - 地域活動に参加する人の受け入れ
 - ・可能性がある 11 機関 /可能性はない 2 機関 /どちらともいえない 6 機関
 - 生涯学習活動に活かせる他の機関と連携・協力
 - ・図りたい 7 機関/検討中 3 機関/不明または未記入 9 機関
 - 意見等
 - ・年 4 回程度の定期的な開催を希望
 - ・出張所の参加は代表して 1 所のみでよいと思う
 - ・MIW も構成団体に加えてほしい
- ・情報交換
 - ・かがやき大学には多くの高齢者が受講している。チラシ配布などの際には活用いただければ、との提案があった

実施報告を受けて、事務局から

意見交換

○「地域活動に参加する人の受け入れの可能性なし」と回答した中には、「学びと地域のコーディネーター」としてどのようなスキルやポテンシャルを発揮してくれるのかわからない、という意見があった。具体的にカレッジ卒業生の参画を考えてもらう上では、卒業生の能力についてもう少し見える化が必要である。

○今後、地域のご意見やニーズをどのように情報収集してフィードバックしていくか、連絡会の回数を重ねながら深めていきたい。



○「出張所の参加は代表して 1 所でのよいのではないか」という意見について、出張所は「出先機関の代表」として捉えている可能性がある。こちらとしては「町会等の各地域をとりまとめる機関」として出席していただきたい旨を、改めて説明する必要があるのではないかと。

○ちよカレの学生の中で町会との関わりがある方はどれくらいいるのか。ちよカレと町会をつなぐ役目を出張所に果たしてもらいたい。そうすれば町会非加入の新規住民とのつながりが作れると思う。

⇒町会をテーマに挙げている学生は何人かいる。世代交代や新旧住人の問題を解決できるようなコーディネーターを養成していきたい。

③ テーマについて自由討論

ちよカレ内の交流

○第1期生と第2期生が交わって催し物をする機会はあるのか。

⇒第2期生にとって初めての自主活動（委員会活動）が10月31日にあり、ここで一部の学生は第1期生と交流ができる。

来年3月4日のオープンカレッジでは、第1期生を中心に第2期生とも交流をするプログラムを考えている。

○ちよカレ内のつながりは非常に大事だと思う。在校生と卒業生のつながりが、同窓会みたいな形で何かできるとよいのではないか。

○第1期生と第2期生を合わせて、年齢で分けてグループを作ってみても面白いのではないか。年齢によって人生経験も違うし思い描いているビジョンも違うので、同じテーマで研究しても全くちがう結果になると思う。

学生自身からの発信

○第1期生が発信する機会はあるのか。

⇒3月のオープンカレッジでは、学んできたことをパネルのようなものにして発表したいというアイデアが出てきている。

卒業後の活躍については、考えながら2年間過ごすことをテーマとしている。オープンカレッジで発信することを学んだ後、ゼミ方式で学んでいく予定。

⇒事務局としては、学生たちの声をこの会議体で紹介できるようにしていきたい。

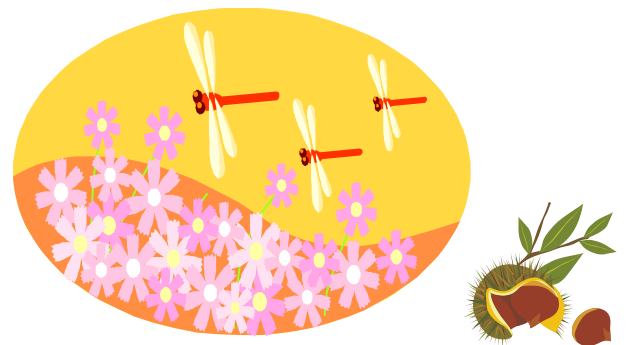
企業や地域とのネットワーク

○勤め先は大きな会社で社会活動に力を入れているのに、ちよカレを知っている人に出会ったことがない。近年の風潮から、大小関わらず企業は社会活動に関心を持っているはず。思いは一緒なのだが、情報がうまく結びつかず、実現していないと感じる。

○地域から欲しい人材、必要なスキルなどの情報があれば、要望に応じた授業を組み立てることもできるかなと思う。

○地域と企業の関わりは、地元の小さな情報から始まると思う。ある企業は、地元の餅つきの際には場所を提供してくださり、年2回の地域清掃やたばこパトロールにも参加してくださっている。このような小さな協力を得るためにも、地域に根差す出張所に、地域の小さな声を吸い上げてもらう必要がある。

○企業の人事担当の方にちよカレの受講生になっていただき、千代田区の社会活動についてなどの知識をつけてもらってはどうか。どこかの企業で仕事にフィードバックできたと実績がでたら、おもしろいことになると思う。



(番外)

ちよカレのオープンカレッジについて

○オープンカレッジの会場が九段生涯学習館のレクリエーションホールだと、6階まで見に行く人はあまりいないので、「オープン」な感じがしない。作品展のようにもっと人目につくところでやるとか、パネルをオープンカレッジ後も展示できるところに飾っておくと、もっと多くの人にちよカレの活動が伝わるのではないかな。

○公開講座みたいなものをやってみるとよいのではないかな。例えば区民ホールならば、たまたま区役所に立ち寄った際にも見たり聞いたりするため、見学をするためのハードルが下がる。短縮版の授業をやって授業紹介みたいな形もよいと思う。

○オープンカレッジの「オープン」をどう担保するのか、より多くの人に見てもらうためにはどうしたらいいのかを学生自身に考えてもらってはどうか。

編集後記（事務局より）

第11期第8回のエポックをお送りいたしました。今回は自由討論もあり、あつご意見が交わされた様子をお届けできたのではないのでしょうか。

ご多忙の中、リレー随筆をお引き受けいただいた杉森委員、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしくお願いいたします。

【編集／発行】

地域振興部 生涯学習・スポーツ課

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL：03-5211-3632

FAX：03-3264-1466

Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

リレー随筆 No.12

「人と共に学ぶ喜び」

杉森 一恵

小・中・高・大という学生時代の学びは、「後学」のための性格が強いが、生涯学習は、まさに生き方や現代社会に直結した「今学」と考えている。グローバル化が進み、インターネットでリアルタイムに情報が得られる現代、「学び」ということだけでいえば、いつでもどこでも学べる環境は整い、自学自習で知識を十分に得られる。ではなぜ千代田スタイルの「ちよカレ」が求められたのか。

私はちよカレ開設のモニターコース「生涯学習大学 生涯学習コーディネーター養成～体験編～発信力」を受講した。年齢・経歴がさまざまな受講生。座学以外にグループワークがあることに最初はとまどいと不安があったが、前半の講義で、「他者を尊重すること」「“違い”が“何故？”という新たな疑問を生み、それを知ることによって新たな“学び”が生まれる」ことを学んだ。そしてそれを意識しながら後半のグループワークに臨んだことによって、不安は「違いを楽しむ気持ち」へと変化し、最後にはメンバーと離れるのは寂しいとまで感じるようになった。このような知識を超えた学びは人が集って学ぶ形でないと得られない。生涯学習、特に人と人を結びつける「コーディネーター」という分野では、共に学ぶスタイルにこそ意義があると実感した体験となった。

ちよカレの学生が、共に学ぶ中から喜びを感じ、その喜びを力にして、様々な形で生かしていけるよう今後も議論を進めていきたい。



第 11 期第 9 回 会議要旨

平成 29 年 12 月 19 日（火）、第 9 回生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は、これまでの会議を振り返りながら、今期のテーマ「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」について最終討論をしていただきました。また「ちよだ生涯学習カレッジ」について、第 3 期生入学募集案内について意見交換をしたほか、ちよカレ事務局から 2 コース目「千代田まちマイスターコース」のカリキュラム（案）の提示を受けました。

「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」

テーマについて最終討論

第 1 期生の卒業について

○ちよカレ第 1 期生は、1 回目の卒業生として、後に続く学生に「こんなことができるんだ」と示す必要がある。そのために、ある程度卒業後の道筋をつけてあげ、卒業後すぐに活動できるようにサポートすることも必要なのではないか。

○生涯学習連絡会では、参加機関から「学生がどういう人材なのか、もう少し具体的にわかれば」という意見があった。つまり、第 1 期生の卒業後の活躍が今後のモデルになってくると考えられる。

○学生は入学時と卒業時で、将来どんな活動がしたいかが変わってくると思う。我々が闇雲に卒業後の活動を考えてつなげるのではなく、入学時にアンケートをとっておき現在の希望とともに調査をすると、より検討しやすくなるのではないかと。また、入学時と卒業時の差を取ることで、「ここで学ぶとこれだけ変化が出て、結果このようになった」とこれからの学生へのロールモデルとしても見せやすくなるのではないかと。

ボランティア活動について

○ちよカレ生は 7 月に卒業するため、年度単位に合わせた活動ができない。
⇒ボランティア活動に目を向ければ、活動の場はたくさんあるのではないかと。

○学校現場では、地域の方々にお越しいただいて活動をする人が多い。関心が高いボランティア希望者と学校とのニーズが合致すれば、継続的にボランティア活動ができる可能性もあると思う。ボランティア希望者の情報がたくさんそして簡単に入手できるようになるとよい。

○講座のティーチングアシスタントになってもらってはどうか。

○ボランティアセンターでは、実際に第 1 期生の方で「ちよとも」というボランティアグループで活躍されてる方もいる。具体的にどんなことをやりたいのかがわかると、地域で活動しているボランティアグループと一緒に地域課題を解決していくというところで、力が発揮できるのかと思う。



ボランティア活動について（つづき）

○美術展において、地域の高齢者施設の方の移動を手助けするボランティアはある。しかし、美術展に興味がない高齢者施設などや、実際に美術展への移動の間で、美術展の案内や見どころ説明をしてくれる人がいれば、現地でよりプラスになる説明ができ、より興味を持ってもらうことができる。美術展に限らず千代田区にはイベントがたくさんあり、実際に行けない人のためのボランティアもあるので、その間に立つコーディネーターがいれば、よりイベントが盛り上がると思う。

子どもに関して

○近年、発達障害の子どもが増えており、児童・家庭支援センターにも多くの子どもが在籍している。このような子どももいるということを視野にいていただきたい。

○今、家庭と地域と学校が一体になって教育を進めていて、最終的には子どもたちが地域に貢献できるような人材育成を目指している。直接人と関わりをもって学ぶことで、子どもたちがいずれ恩返しできるようにつながると思う。

千代田区らしさについて

○千代田らしさをどうプロデュースしていくのかが大切。たとえば、他自治体の市民カレッジの学生は比較的高齢者であることが多いが、ちよカレは在勤の若い人が多い。また、千代田区はマンションが多いが、最近はマンションに関する事件も起こっている。地縁、社会関係資本など、千代田区の特徴とちよカレをどうつなげていくかがすごく気になっている。

○他市の市民カレッジでは、働いている人は帰宅すると 7 時を過ぎてしまうため、時間に余裕のある人しか参加できなかった。一方ちよカレでは、区外在住者でも在勤者として、千代田区で学びデビューすることができる。これも千代田区らしさである。この意味では、ちよカレ申込資格の「在住・在勤・在学」の要件をなくすと、より多くの人にとっての生涯学習活動が広がるのではないかな。

○千代田区らしさについて考える際、いつも歴史に関することになりがちだが、人口の構成などの要素も大事である。

企業との連携について

○学校では、小学校の社会科見学などで地域の商店などの企業と関わることもある。卒業生が企業へアプローチできた場合、学校への貢献だけでなく企業の地域参加にも貢献できるのではないかな。

⇒企業との連携については、アプローチの仕方も含めて今後検討を重ねる必要がある。

○児童館のボランティアとして活動している中で、企業が扱っている素材を児童に実演しながら見せる、というカリキュラムがあった。そういう企業の方の中には、このような提案をされる方もいるのではないかな。

○企業の場合には、社員として個人で活動するだけでなく、場合によっては企業全体の協力を得るまで発展する可能性もあるのではないかな。そうなれば、個人による協力とは違った効果も期待できる。



デビューの場の提供について



○ロバート・D・パットナム「孤独なボウリング」では、地域コミュニティの崩壊について論じられており、その問題に関し、今でも強く心に残るのは、ロンドンオリンピックの最終聖火ランナーである。近年の最終聖火ランナーはしょうがい者や少数民族などマイノリティの人から選ばれることが多いが、ロンドンオリンピックでは、普通の若者が選出された。一見マイノリティ化していないと思われるが、実は彼らはその地域から排除されたマイノリティだった。この若者たちにデビューの場を作り、連帯や希望を託すという面でプロデュースをした場が、最終聖火ランナーだったのである。デビューの場については、併せて千代田の魅力も伝えていけるようにできるとよいと思う。

○卒業生の活動の場の提案は、場合によっては押し付けになってしまうこともある。たとえば同じボランティアををするとしても、自己有用感のため、やりたかったことができるようになったという達成感のため、良いことをしたという他者からの評価のため、と理由はおそらく人によって違う。デビューの場の提供についても、これらを考慮する必要があると思う。

○卒業後のネットワークをどうつくっていくのかが非常に大事である。それが結果的に社会関係資本、ソーシャルキャピタルにつながり、最終的には生涯学習大学がこれをつくっていくのだろうと思う。

「ちよだ生涯学習カレッジ」について

第3期生の募集案内について

(事務局より)

今年の第2期生募集に際し、当初は定員に満たなかったため「二次募集」を実施した。次の第3期生募集に際し、募集要項にこの「二次募集」について記載するかどうか。

委員からの意見

○あらかじめ記載しなくても、チラシを作成して募集要項にはさみこんだり、表紙などにシールを貼ったり、あとから情報を追加する方法もある。

○応募する側としては、応募しようと考えていたものの悩んでいるうちに応募期日を過ぎてしまう、ということもある。あらかじめ二次募集がある可能性を示していれば、そのような方々のためになると思う。

2コース目「千代田まちマイスターコース」のカリキュラム(案)について

○コース長：仲川 秀樹 先生
(日本大学文理学部教授／社会学)

- 基礎Ⅰ 「千代田区学・コミュニティ論」
(自分＝個人と地域、千代田区)
- 基礎Ⅱ 「生涯学習概論」
(生涯学習入門、大人の学び合い)
- 専門Ⅰ 「シンボリックにみる千代田のまち」
(概要・総論)
- 専門Ⅱ 「メディア的にみる千代田のまち」
(各論・トピック)
- 習熟Ⅰ 「千代田のまちを实践する」
(実践・フィールドワーク)
- 習熟Ⅱ 「千代田まちマイスターへの道」
(プレゼン・成果発表)

(補足)
オープンカレッジについて

2年目を迎えた「学びと地域のコーディネーター養成コース」第1期生が、「学びでつなごう 地域の輪」をテーマに、学ぶ面白さに触れる一日を皆さんに提供します。

どなたでもお気軽にご参加いただけます。ちよカレ体験をしにぜひいらして下さい。子育て中でも安心して参加できるようお子様スペースもご用意しております。

○日時 3月4日(日) 10時～16時
○会場 九段生涯学習館(九段南1-5-10)
○託児サービス 1歳以上の未就学児を対象。
2月25日(日)までに要予約。

○講演会 13時～14時20分
「つくる学びとわかる学び」
課題の解決に向けて、「学び」という
視点で考える。
講師：佐藤晴雄氏
(ちよだ生涯学習カレッジ学長)

佐藤会長による講演会です！
ぜひご参加ください！！



リレー随筆 No.13

「大人の教育、子どもの教育」

佐藤 晴雄

「学び」とは「まねび」に由来する言葉です。つまり、まねをすることです。私たちは文字を習得するために、お手本通りに鉛筆で文字をまねしました。典型的な例が「習字」です。一方では、考える学び、深い学びが重要で、「学び」は単にまねて覚えることでは十分でないと言われます。

ところで、アメリカの成人教育学者のノールズは、子どもの教育の在り方をペダゴジー、大人の教育の在り方をアンドラゴジーと名付けました。後に、子どもにもアンドラゴジーによる学びがあり、大人にもペダゴジーの学びがあると修正しましたが、大胆に解釈すれば、ペダゴジーはまねることであり、アンドラゴジーは考える学びに近い概念だと思えます。

韓流ブームの頃、知り合いの高齢者はハングルを熱心に学んでいました。その学びはペダゴジーの概念で捉えられます。小学生が総合的な学習の時間で調べ学習をしています。これはアンドラゴジーの概念に近いように思われます。

そのような二つの視点で学べる機会をつくることが生涯学習の重要な課題になると言えます。

編集後記(事務局より)

第11期第9回のエポックをお送りいたしました。

今回はテーマについて最終討論ということで、どのように学びを紡ぎ、地域を結ぶのか、活発にご議論いただきました。

最後を飾るリレー随筆は佐藤会長でした。報告書作成も重なり大変ご多忙中ご対応くださった会長に、心から御礼申し上げます。

今期のエポックはこれで終了です。皆様、お付き合いありがとうございました。第12期もどうぞよろしくお願いいたします。

【編集／発行】

地域振興部 生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL: 03-5211-3632
FAX: 03-3264-1466
Email: shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり
(報告書)

—第 11 期千代田区生涯学習推進委員会議—

平成 30 年 3 月発行

発行元 千代田区地域振興部生涯学習・スポーツ課
東京都千代田区九段南 1 - 2 - 1
電話 03 (5211) 3632

教育委員会行事予定表

教育委員会資料
平成30年4月10日
子ども総務課

※ ◎印は教育委員出席予定行事 / ○教育長出席予定行事

月	日	曜	時刻	場 所 等	行 事 (事 業 名)	備 考
4	10	火	10:00～ 13:00～ 15:00～ 18:30～	区立幼稚園、こども園 あい・ぽーと麹町 教育委員会室（子ども総務課） 401会議室(子ども総務課)	幼稚園、こども園入園式 パン教室 教育委員会第6回定例会◎ 青少年委員会第1回定例会	教育委員出席
	11	水	10:00～ 10:45～ 11:00～ 11:00～ 14:00～	教育委員会室（子ども総務課） 神田児童館 あい・ぽーと麹町 あい・ぽーと麹町 あい・ぽーと麹町	校園長会 よちよちタイム「ベビーマッサージ」 サロンdeあいぽーと（アロママッサージ） 読み聞かせ 親子&キッズバレエ（3クラス）	
	12	木	13:30～	いずみこどもプラザ	一年生歓迎お楽しみ会	
	13	金	10:30～ 14:30～	あい・ぽーと麹町（児童・家庭支援センター） 一番町児童館	子育てサポート利用会員登録説明会 入学・進級おめでとう会	
	14	土	11:00～	あい・ぽーと麹町	リラックスアロマ	
	15	日	9:00～	九段中等教育学校 四番町児童館	九段中等教育学校 開校記念日 児童館日曜開放	
	16	月	10:00～ 11:00～	千葉県南房総市（指導課） あい・ぽーと麹町 富士見わんぱくひろば	オリエンテーション合宿①（麹町中学校 4/18まで） リトミック（2クラス） 幼児クラブ すくすくクラス スタート	
	17	火				
	18	水	下校時	千葉県南房総市（指導課） 全区立小学校	オリエンテーション合宿②（神田一橋中学校 4/20まで） 子どもの安全・安心一斉パトロール	
	19	木	10:00～ 11:00～	あい・ぽーと麹町 富士見わんぱくひろば	ふれあい体操(3クラス) 幼児クラブ よちよちクラス スタート	
4	20	金	10:30～ 11:00～ 14:00～	あい・ぽーと麹町 一番町児童館 中野サンプラザ	おやこdeえいご 親子リズム講座 平成30年度教育施策連絡協議会◎	教育委員出席
	21	土				
	22	日	9:00～	都立白鷗高校 西神田児童センター	公立中高一貫校を知る会 児童館日曜開放	
	23	月	9:00～	千葉県南房総市（指導課） 教育委員会室（指導課）	オリエンテーション合宿③（九段中等教育学校 4/25まで） 学校経営方針等説明会 （AM）◎	教育委員出席
	24	火	9:00～ 10:00～ 15:00～	教育委員会室（指導課） あい・ぽーと麹町 教育委員会室（子ども総務課）	学校経営方針等説明会 （AM）◎ おもちゃの病院 教育委員会第7回定例会◎	教育委員出席 教育委員出席
	25	水	11:00～ 14:00～ 14:00～ 14:30～ 14:30～	あい・ぽーと麹町 あい・ぽーと麹町 神田児童館 西神田児童センター 四番町児童館	読み聞かせ 親子&キッズバレエ（3クラス） 入学・進級おめでとう会 入学・進級おめでとう会 入学・進級おめでとう会	
	26	木				

教育委員会行事予定表

教育委員会資料
平成30年4月10日
子ども総務課

※ ◎印は教育委員出席予定行事 / ○教育長出席予定行事

月	日	曜	時刻	場 所 等	行 事 (事 業 名)	備 考
	27	金	14:00～	教育委員会室（指導課）	学校経営方針等説明会（AM）◎	教育委員出席
	28	土				
	29	日				
	30	月				
5	1	火				
	2	水				
	3	木				
	4	金				
	5	土	9:00～ 9:30～ 10:00～ 10:00～ 10:00～ 10:00～ 13:15～	西神田児童センター 四番町児童館 神田児童館 一番町児童館 富士見わんぱくひろば いずみこどもプラザ いずみこどもプラザ	みんなであそぼうこどもの日 みんなで遊ぼう！こどもの日 親子であそぼう こどもの日 元気にあそぼう！こどもの日 こどもの日ミニまつり こどもの日イベント「こいのぼり工作」 こどもの日イベント「映画上映会」	
	6	日				
	7	月	10:00～ 11:40～	あい・ぽーと麹町 あい・ぽーと麹町	リトミック（2クラス） コーラストタイム	
	8	火	15:00～ 10:00～ 18:30～	教育委員会室（子ども総務課） 四番町児童館 未定（子ども総務課）	教育委員会第8回定例会◎ ベビープログラム 青少年委員会第2回定例会・青少年委員歓送迎会	教育委員出席
	9	水	11:00～	あい・ぽーと麹町	サロンdeあいぽーと（アロママッサージ）	
5	10	木	10:00～ 10:15～	あい・ぽーと麹町 神田児童館	ふれあい体操(3クラス) 1. 2歳児親子体操クラブ①第1回／全3回	
	11	金	10:30～	あい・ぽーと麹町	おやこdeえいご	
	12	土	11:00～	あい・ぽーと麹町	リラックスアロマ	
	13	日				
	14	月	10:30～ 13:00～	群馬県嬬恋村（指導課） 神田児童館 あい・ぽーと麹町	嬬恋自然体験交流教室①（九段小・お茶の水小 ～15日まで） リラックスヨガ①第1回／全6回 千代田区子育て支援員研修開講式	

広報千代田（4月20日号）掲載予定 子ども部、地域振興部（文化振興課、生涯学習・スポーツ課）所管事項

課	係 (担当者・内線)	件 名	事 業 の 概 略	と き	会場	主催者
				開催日・ 開催期間	住所は区立施設 以外のみ記入	区以外が主催の とき
子ども総務課	子ども総係 村松・2014	教育委員の就任について	中川典子氏及び俣野幸昭氏の教育委員への就任（3月25日付）			
児童・家庭支援センター	子育て事業係 右働・462624	子育てサポートが受けられる利用会員登録説明会	自宅へ子育て・家族支援者を派遣し、宿泊や病後児の保育なども行う、千代田子育てサポート事業の利用会員登録説明会。	5月15日（火） 10時30分～11時30分	あいぽーと麹町2階「にじ」	NPO法人 あい・ぽーとステーション
児童・家庭支援センター	西神田児童センター 能美・2451	「親と子の絆プログラム ノーバディーズ・パーフェクト」	お子さんと離れ、ママ同士で子育ての悩みや困りごとを話し、自分らしい子育て方法を見つける。	平成30年6月7日～7月12日の毎週木曜日（全6回）10時～12時	西神田児童センター	
児童・家庭支援センター	西神田児童センター 進藤・2451	「みんなあつまれ！こどもの日」	プラレールやボールプール、お楽しみ工作、ミニシアターを行う。	5月5日（祝・土） 10時～	西神田児童センター	
児童・家庭支援センター	神田児童館 遠藤・472452	親子であそぼう こどもの日	プラレールやこいのぼりを制作する。	5月5日（祝・土） 10時～16時	神田児童館	
児童・家庭支援センター	四番町児童館 中西・2454	親子で遊ぼう！こどもの日	プラレール・トミカの制作を行う。	5月5日（祝・土） 9時30分～16時	四番町児童館	
児童・家庭支援センター	一番町児童館 笠原・2455	元気にあそぼう！こどもの日	①プラレールやこどもの日の制作を行う②トランポリンで遊ぶ	5月5日（祝・土） 10時～16時 ①10時～ ②13時30分～15時	一番町児童館	
児童・家庭支援センター	富士見わんぱくひろば 堀越 3263-1185	富士見わんぱくひろば こどもの日ミニまつり		5月5日（祝・土） 10時～16時30分	富士見わんぱくひろば	富士見わんぱくひろば
児童・家庭支援センター	いずみこどもプラザ 清水 3865-1461	こどもの日 お楽しみ工作会&映画上映会	①簡単なこいのぼりなどの工作を行う②大きなスクリーンを使用した映画上映を行う	5月5日（祝・土） ①10時～15時 ②13時30分～15時45分	いずみこどもプラザ	いずみこどもプラザ
児童・家庭支援センター	あい・ぽーと麹町 早坂 3556-8471	子育てひろば「あい・ぽーと麹町」ウェルカムウィーク	さまざまなプログラムを会員以外の方にも楽しんで頂く。	5月7日（月）～11日（金）10時～16時30分	あい・ぽーと麹町	NPO法人 あい・ぽーとステーション
学務課	学務係 佐々木・3121	給食費や学用品費等の援助	経済的な理由で学校に通うことが困難な児童・生徒の保護者に、給食費や学校用品等を援助していることを周知する。			
児童・家庭支援センター	各児童館	児童館の「子育てひろば」の紹介	各児童館の「子育てひろば」を紹介する。			
文化振興課	千代田図書館 高橋・3170	千代田図書館 企画展示	雑誌『ナショナルジオグラフィック』から「自然」「人びと」「生活の営み」を伝える30点の写真を展示。	4月23日（月）～7月21日（土）	千代田図書館	千代田図書館
文化振興課	千代田図書館 高橋・3170	千代田図書館 神保町ツアー	図書館内でのゲスト講演の後、千代田図書館コンシェルジュが神田神保町古書店街をツアーで案内。	5月26日（土）13時～15時30分（仮）	千代田図書館（集合）⇒神田神保町	千代田図書館

広報千代田（4月20日号）掲載予定 子ども部、地域振興部（文化振興課、生涯学習・スポーツ課）所管事項

課	係 (担当者 ・内線)	件 名	事 業 の 概 略	と き	会場	主催者
				開催日・ 開催期間	住所は区立施設 以外のみ記入	区以外が主催の とき
文化振興課	図書館係 井口・3149	大正モダン～大正の大衆文化と東京のモ ダンデザイン～(仮)	いまなお清新な輝きを放つ大正～昭和初期に かけての様々なグラフィック・デザインを紹 介。	6月8日(金) ～8月7日(火)	日比谷図書文 化館	日比谷図書 文化館
文化振興課	図書館係 井口・3149	特別展関連講座 時代をこえ今も生きている大正ロマン	多彩で豊饒な大正ロマンの現代性を語る。	6月23日(土)14時～	日比谷図書文 化館	日比谷図書 文化館
文化振興課	図書館係 井口・3149	特別展関連講座 出版、広告に花開いた大正モダンデザイ ン(仮)	グラフィックデザインの発展をたどる。	7月14日(土)14時～	日比谷図書文 化館	日比谷図書 文化館
文化振興課	文化振興係 角田・3145	ミニコンサート&ちよだ芸術祭合唱団募 集説明会	「ちよだ芸術祭」の団員募集説明会。プロの オペラ歌手の無料コンサート付き。	5月12日14時～	区民ホール	かんだ歌宴 事務局
文化振興課	文化振興係 角田・3145	文化芸術の秋フェスティバル実行委員を 募集	「千代田区文化芸術の秋フェスティバル」の 開催に向け、企画・運営を行う実行委員を部 門ごとに募集			
生涯学習・スポーツ課	オリパラ係 小野寺・2255	東京2020年オリンピック・パラリンピッ ク競技大会気運醸成事業への補助	東京2020大会開催に向けた気運醸成事業につ いて、区から補助金を交付する。			
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	ニュースポーツ講習会(グラウンドゴル フ)	区内在住・在勤・在学者を対象にニュース ポーツ講習会(グラウンドゴルフ)を開催す る。	5月19日(土)5月27日 (日)(全2回)10時～ 12時	和泉公園	
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	第27回ニュースポーツ大会(グラウンドゴ ルフ)	区内在住・在勤・在学者を対象にニュース ポーツ大会(グラウンドゴルフ)を開催する。	6月3日(日)10時～12 時	和泉公園	
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	少年少女相撲大会わんぱく相撲千代田場 所(都大会予選)	区内在住・在学の小学生を対象に相撲大会を 開催する。	5月27日(日)9時～17 時	スポーツセン ター	千代田区体 育協会
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	卓球初心者講習会	区内在住・在勤・在学者を対象に卓球初心者 講習会を開催する。	6月1日～20日の毎週 水・金曜(全6回)18 時30分～	スポーツセン ター	千代田区体 育協会
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	ジュニア空手道教室	区内在住・在学の小・中学生を対象に空手道 教室を開催する。	6月2日～30日の毎週 土曜(全5回)10時～ 11時45分	スポーツセン ター	千代田区体 育協会
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	子ども水泳教室(前期)	区内在住・在学の小学生(①1・2年生②3～6 年生)を対象に水泳教室を開催する。	6月4日～18日の毎週 月・木曜(全5回)① 14時45分～16時②15 時45分～17時15分	ちよだパーク サイドブラザ	千代田区体 育協会
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	アーチェリー初心者講習会	小学5年生以上の区内在住・在勤・在学者を 対象にアーチェリー初心者講習会を開催す る。	6月6日～22日の毎週 水・金曜(全6回)18 時30分～	スポーツセン ター	千代田区体 育協会
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	ラージボール卓球大会	区内在住・在勤、千代田区卓球連盟登録者を 対象にラージボール卓球大会を開催する。	6月10日(日)9時～	スポーツセン ター	千代田区体 育協会
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 金子・3155	中学・高校卓球選手権大会	区内在住・在学の中学・高校生を対象に卓球 選手権大会を開催する。	6月10日(日)9時～ (中学の部)/6月17日 (日)9時～(高校の 部)	スポーツセン ター	千代田区体 育協会

広報千代田（4月20日号）掲載予定 子ども部、地域振興部（文化振興課、生涯学習・スポーツ課）所管事項

課	係 (担当者 ・内線)	件 名	事 業 の 概 略	と き	会場	主催者
				開催日・ 開催期間	住所は区立施設 以外のみ記入	区以外が主催の とき
生涯学習・スポーツ課	スポーツセン ター 鈴木・3151	成人水泳教室	15歳以上(中学生を除く)を対象に水泳教室を 開催する。	5月28日～6月25日 (6/18を除く)の毎週 月曜(全4回)19時00 分～19時50分	スポーツセン ター	スポーツセ ンター
生涯学習・スポーツ課	スポーツ振興 係 小笠原・ 3144 吉田・ 3155	スポーツ施設の7月分利用申込み・抽選日 等を案内する。(スポーツセンターのみ8 月分)	7月のスポーツ施設の利用申込み抽選(スポー ツセンターのみ8月分)			
生涯学習・スポーツ課	オリパラ係 小野寺・2255	パラリンピック競技体験イベント「ノー リミッツスペシャル2018」	パラリンピック競技体験や競技用具やパネル 等の展示会を開催する。	5月5日15時～17時、 6日10時～18時	丸の内駅前広 場(丸の内1-	東京都



千代田区立学校（園）長 殿

千代田区教育委員会
教育長 坂田 融朗
(公印省略)

平成30年度 校園長による経営方針等説明会について（通知）

このことについて、下記のとおり開催します。
つきましては、準備及び出席について宜しくお願いいたします。

記

- 1 内 容 校園長による学校経営方針の説明及び質疑。その中で以下を説明に加える。
- ・各校の学力、体力・運動能力、いじめ、不登校の状況及び改善目標と方法
 - ・区費講師の活用法及び効果検証法、特色ある教育活動実施による期待される効果
 - ・29年度学校評価や運営連絡会等において挙げられた課題とその対応策

- 2 場 所 千代田区役所 教育委員会室（4階）

- 3 日 時 等

日 程	校種等	時 間	説明校・園（予定）
4 月 23 日（月）	A 中学校	9:00～9:25	麴町中学校
	A 小学校・専任園長園	9:25～9:50	ふじみこども園
		10:00～10:25	番町小学校
		10:25～10:50	千代田小学校
		11:00～11:25	和泉小学校
	A 専任園長園	11:25～11:50	いずみこども園
4 月 24 日（火）	B 小学校（園）・ 中等教育学校	9:00～ 9:40	九段小学校（＊）
		9:40～10:20	麴町小学校（＊）
		10:30～11:10	昌平小学校（＊）
		11:10～11:50	お茶の水小学校（＊）
4 月 27 日（金）	A 中学校	9:00～ 9:25	神田一橋中学校
	B 小学校（園）・中等教育学校	9:25～10:05	九段中等教育学校
	A 小学校・専任園長園	10:15～10:40	富士見小学校
		10:40～11:05	番町幼稚園
		11:15～11:40	千代田幼稚園

- 4 時間配分 1校（園）25分（経営方針等説明15分＋質疑応答10分）
ただし、併設園のある小学校（＊）及び中等教育学校は、40分で実施する。

- 5 当日資料 (1) 学校経営方針
各校園において、資料（A4、1枚程度）を作成し、4月12日（木）までに担当まで電子メールで送付する。タイトルは「学校経営方針（学校名）」とする。
(2) 特色ある教育活動等決定通知（平成30年2月5日付927号）

- 6 そ の 他 同一アルファベットの中で、時間変更も可能です。変更にあたっては、学校間で調整し4月6日（金）までに下記担当までご連絡ください。

【担当】統括指導主事 内線 3163
shidou@city.chiyoda.lg.jp